



ユーザーズマニュアル



Intego Personal Backup X for Macintosh

© 2002 - 2004 Intego, Inc. All Rights Reserved

Intego, Inc.

www.intego.com

本書は、Intego Personal Backup X for Macintosh の使い方を説明するために作成されたものです。本書および本書で説明している Intego Personal Backup X ソフトウェアは著作権法により保護されており、すべての権利が留保されています。本書および Intego Personal Backup X のコピーを作成することは、お客様のソフトウェアライセンスで許可されている場合、または Intego, Inc. の書面による許可がある場合を除き、禁止されています。

本ソフトウェアは、Intego およびそのサプライヤの所有物であり、その構造、機構、およびコードは Intego およびそのサプライヤの貴重な企業秘密です。本ソフトウェアは、米国著作権法および国際条約の規定により保護されています。

Personal Backup X では、Mulle kybernetik の MülleCipher フレームワークが使用されています。



目次

1- Intego Personal Backup X について	5
Intego Personal Backup X とは.....	6
Intego Personal Backup X の機能.....	7
本書の利用について	10
2 - バックアップの概要	11
データを保護する理由.....	12
データを失う原因.....	12
バックアップを行う頻度	14
バックアップのシナリオ	16
データを外部メディアにバックアップする.....	16
データを内部または外部ボリュームにバックアップする.....	17
デイリーバックアップサイクルを実行する	18
複数の「ユーザ」フォルダをまとめてバックアップする	20
3 - インストール.....	22
システム要件.....	23
Intego Personal Backup X をインストールする.....	23
Intego Personal Backup X を登録する	28
評価モードの Intego Personal Backup X を使用する.....	29
4 - クイックスタート	30
Intego Personal Backup X で最初のバックアップを行う.....	31
5- Intego Personal Backup X の使用.....	33
データをバックアップする.....	35
データを復元する.....	40
データを同期化する.....	42
フォルダを同期化する.....	43
ボリュームを同期化する	45
ボリュームのクローンを作成する	47
ファイルをアーカイブする.....	50

Intego Personal Backup X を更新する	54
Intego Personal Backup X について	55
6 - バックアップスクリプトの使用	56
Intego Personal Backup X のスクリプトを操作する	57
新規のバックアップスクリプトを作成する	59
作成	61
ソース	62
コピー先	65
例外	68
フィルタ	70
予約	73
オプション	76
確認	94
スクリプトを手動で実行する	95
スクリプトを編集する	98
スクリプト情報	100
スクリプトログ	102
ログを保存する	103
ログを削除する	104
「スクリプト」引き出しの表示と非表示を切り替える	105
スクリプトを削除する	105
スクリプトを複製する	106
7 - Intego Personal Backup X の環境設定	107
Intego Personal Backup X の環境設定を行う	108
「インタフェース」環境設定	109
リマインダを設定する	110
「ログ」環境設定	111
8 - テクニカルサポート	112
9 - 用語集	114



1- Intego Personal Backup X について

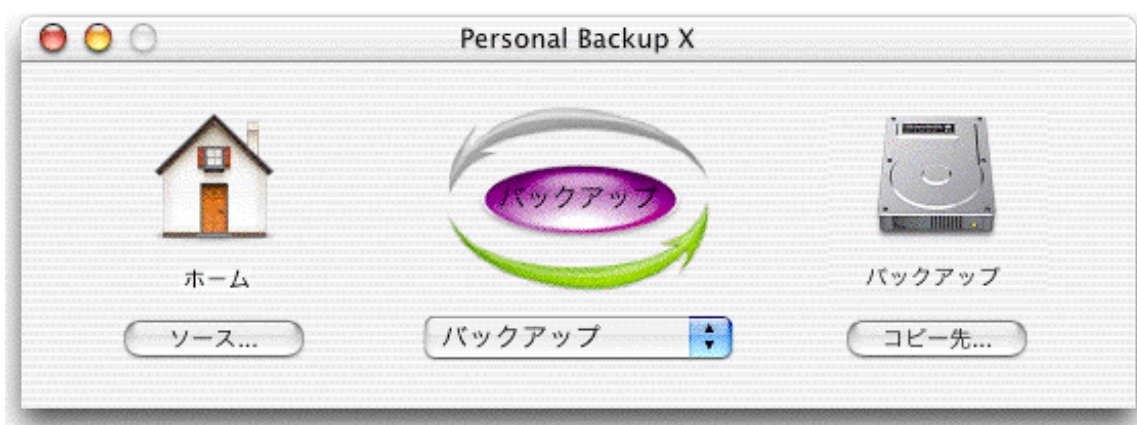


Intego Personal Backup X とは

Intego Personal Backup X は、Mac OS X を搭載した Macintosh コンピュータのための総合バックアップソリューションです。このソフトウェアには様々なバックアップ機能が備わっているため、お持ちのデータ、ファイル、アプリケーション、およびシステムを完全に保護することができます。

Intego Personal Backup X は、コンピュータ内のファイルを自動または手動でリムーバブルメディア(書き込み可能な CD-ROM や Zip カートリッジなど)、ハードディスク上のパーティション、ネットワークボリューム、iDisk、外付けのハードディスク(USB、Firewire、または SCSI)、またはディスクイメージファイルにバックアップします。また、Intego Personal Backup X を使って、バックアップを復元したり、2 台のコンピュータ間(たとえば、デスクトップコンピュータと iBook または PowerBook との間)でデータを同期化したり、Mac OS X ボリュームのクローンを作成したりできます。

Intego Personal Backup X を使えば、「Personal Backup X」ウィンドウのソースフォルダおよびコピー先フォルダにファイルをドラッグアンドドロップするだけで、ファイルをバックアップできます。さらに、Intego Personal Backup X の詳細設定モードでは、ユーザ自身がバックアップスクリプトを作成できます。つまり、Intego Personal Backup X の機能を自由自在に操作できるのです。



第 1 章- Intego Personal Backup X について

Intego Personal Backup X3 には、Mac OS X 10.3 Panther、OS X 10.2 Jaguar、および OS X 10.1.1 以降との互換性があります。

Intego Personal Backup X の機能

Intego Personal Backup X には、データを保護するために必要なすべてのバックアップ機能および復元機能が備わっています。これらの機能は、単純な操作で簡単に使用できます。

バックアップ

Intego Personal Backup X は、コンピュータ内のデータを自動または手動でリムーバブルメディア(書き込み可能な CD-ROM や Zip カートリッジなど)、ハードディスク上のパーティション、ネットワークボリューム、iDisk、外付けのハードディスク(USB、Firewire、または SCSI)、またはディスクイメージファイルにバックアップします。バックアップの対象として特定のフォルダ、ボリューム全体、またはハードディスク全体を選択でき、ワンクリックするだけで各バックアップを実行できます。

復元

データを失っても Intego Personal Backup X を使用すれば、ワンクリックでバックアップを復元できます。復元を実行すると、すべてのファイルが前回実行したバックアップの状態に戻ります。また、バックアップしたファイルを 1 個だけ検索する場合には、Finder からそのファイルを個別にコピーできます。Intego Personal Backup X は、標準のファイル/フォルダフォーマットでファイルを保存します。プログラムを使用しないとアクセスできないような特殊ファイルは使用しません。



第 1 章- Intego Personal Backup X について

同期

デスクトップ型の Macintosh と iBook または PowerBook など、2 台のコンピュータを使って作業する場合、両方のコンピュータのすべてのファイルを最新の状態に保つことは容易ではありません。Intego Personal Backup X があれば、ワンクリックするだけで 2 台のコンピュータ内のファイルを同期化することができます。最新バージョンのファイルが両方のコンピュータにコピーされるため、同期が完了したときには、まったく同じデータが両方のコンピュータに含まれるようになります。

クローン

Mac OS X でボリューム、パーティション、またはハードディスク全体をバックアップする場合、それらを別の場所にコピーするのは簡単な作業ではありません。Mac OS X には、ユーザがアクセスできない多くの不可視状態のファイルがあります。Finder でも、これらのファイルはコピーされません。Intego Personal Backup X を使用すると、ボリューム、パーティション、またはハードディスクのクローンを作成することで、それを別のボリュームにコピーできます。この操作によってオリジナルのボリュームとまったく同じものが作成されるため、それを起動ボリュームとして使用することも可能です。たとえば、このボリュームは、Mac OS X システムを含む外付けのハードディスクを使って 2 台以上のコンピュータを起動したいような場合に使用できます。また、Mac OS X の起動ボリュームのクローンを作成しておけば、起動可能なバックアップとしていつでもそのボリュームを使用できます。注記：ネットワークを介してボリュームのクローンを作成することはできません。

アーカイブ

Intego Personal Backup X では、データをアーカイブするために、圧縮形式のディスクイメージファイルを作成できます。この機能を使用すれば、お持ちのデータを 1 個のファイル内に保存できるため、ディスク容量を節約できます。アーカイブは、可能な限りディスク容量を節約してファイルを保存したい場合に便利な機能で、週 1 回または月 1 回の定期的なバックアップ作業に適し



第 1 章- Intego Personal Backup X について

ています。Intego Personal Backup X では、アーカイブしたデータの量に合わせて適切なサイズのディスクイメージが自動的に作成されます。アーカイブは特殊な形式のバックアップで、修正することはできません。つまり、インクリメンタルなアーカイブを実行することも、その内容を変更することもできません。ただし、アーカイブから個々のファイルまたはすべてのファイルをコピーすることは可能です。注記:アーカイブ機能を使用できるのは、Mac OS X 10.2 またはそれ以降のバージョンだけです。

カスタムバックアップスクリプト

Intego Personal Backup X を使用すると、ワンクリックするだけでデータをバックアップできます。しかし、Intego Personal Backup X の詳細設定モードを利用すれば、カスタムバックアップスクリプトを作成することが可能です。コピーまたは除外するファイル、ソースフォルダまたはコピー先フォルダでファイルが変更されている場合の Intego Personal Backup X の動作、バックアップを自動的に実行する自動予約など、様々なオプションがあります。Intego Personal Backup X の詳細設定モードを使えば、バックアップ、復元、同期、アーカイブ、およびクローン作成に関するすべてのオプションを自由自在に操作できます。たとえば、ディスクイメージ内にファイルをバックアップしたり、Intego VirusBarrier X を使ってファイルをスキャンしたりできます(このプログラムがインストールされている場合に限る)。さらに、スクリプトの実行後に Intego Personal Backup X またはコンピュータを終了することも可能です。



本書の利用について

Intego Personal Backup X の使い方はとても簡単なため、単にバックアップを実行したいという方はもちろん、ほとんどのユーザの方がほんの少しの時間を費やすだけで使い始めることができます。ワンクリックでデータをバックアップする方法については、第 4 章「クイックスタート」を参照してください。

バックアップの目的および基本的概念をさらに理解するには、第 2 章「バックアップの概要」を参照してください。その後、第 3 章「インストール」へ進んでください。バックアップに関する十分な知識がある方は、それ以上先を読む必要はありません。Intego Personal Backup X は、簡単な操作でデータのバックアップ、復元、アーカイブ、および同期を実行できるように設計されています。第 5 章「Intego Personal Backup X の使用」では、本プログラムの主な機能について説明しています。また、第 7 章「Intego Personal Backup X の環境設定」では、本プログラムの環境設定で利用できるオプションを紹介しています。

独自のバックアップスクリプトを作成する方法については、第 6 章「バックアップスクリプトの作成」を参照してください。この章では、Intego Personal Backup X の機能を自由に操作する方法、予約したバックアップを実行する方法、バックアップから特定のファイルを除外する方法、ネットワークボリュームを自動的にマウントする方法などについて説明します。

本書の最後には、本書で使われている特定の用語の定義をまとめた用語集があります。



2 – バックアップの概要



データを保護する理由

Mac を仕事または趣味のいずれの目的で使うにしても、ファイルの作成や編集、アプリケーションのインストール、Mac OS X システムのインストールおよび維持には多くの時間がかかります。コンピュータを自宅で使用している場合は、銀行口座の記録、電子メールのアーカイブ、さまざまなデータベース、学校の宿題、家族のデジタル写真などがコンピュータ内に保管されていることでしょう。また、コンピュータを仕事に使用している場合は、報告書、スプレッドシート、データベースなど、仕事や取引に欠かせない書類やファイルが保管されていることでしょう。これらのファイルはどれも貴重なものです。旅行で撮った写真や最新の会計報告書など、多くのファイルは、いったん失うと取り返しがつきません。

ファイルをバックアップしていないと、思わぬときに不幸な結果を招くことがあります。ファイルを探していて、それらがなくなっていることに気が付いた場合、ファイルを取り戻せる望みはほとんどありません。ただ自分が不注意だったことを後悔し、これからはもっと頻繁にバックアップしようと反省するのが関の山です。Intego Personal Backup X を使うと、簡単にデータをバックアップできます。フォルダをドラッグアンドドロップし、マウスボタンをクリックして、データが安全かつ完全にコピーされていることを確かめるだけでよいのです。

データを失う原因

データの失い方にはいろいろなケースがあります。いずれのケースにしても、定期的にファイルをバックアップしておくことで、ファイルの損失を最小限に抑えることができます。ファイルやフォルダを誤って消去してしまう場合以外に、以下のことが原因でデータを失う場合があります。



第2章 – バックアップの概要

- ファイルを開いているときにプログラムがクラッシュすると、ファイルが壊れ、ファイルの内容が失われることがあります。
- 停電になったときに非常用電源がなかった場合は、作業中だったファイルを失うだけでなく、ハードディスクが損傷し、一部またはすべてのファイルを失う可能性があります。
- ハードディスクがクラッシュした場合やディレクトリが損傷した場合は、ハードディスクまたはディレクトリに含まれているファイルの一部またはすべてを失うことがあります。
- コンピュータの他のコンポーネントにハードウェア問題がある場合は、それがコンピュータ内のデータに影響する可能性があります。
- お使いのコンピュータまたはその中のファイルがウイルスに汚染されると、それらのファイルが壊れ、その内容を取り戻せなくなる可能性があります (Intego VirusBarrier X は、あらゆる既知のウイルスからデータを保護します。Intego VirusBarrier がインストールされていれば、Intego VirusBarrier を使ってファイルをバックアップする際に、すべてのファイルがチェックされます)。
- お使いのコンピュータがハッカーからの攻撃を受けた場合、一部またはすべてのファイルが消去または破壊される可能性があります (Intego NetBarrier X は、あらゆるタイプのハッカー攻撃からコンピュータおよびそのデータを保護します)。
- コンピュータが盗まれた場合や、コンピュータをどこかに置き忘れたような場合には、すべてのデータを失います。
- 火事、洪水、地震などの災害による被害にあった場合には、高い確率で一部またはすべてのデータを失います。
- 誤ってファイルを消去した場合は、ファイル回復プログラムがあってもそのファイルを取り戻せない可能性があります。



バックアップを行う頻度

ファイルやデータをバックアップするのに適切な頻度は、どのくらい頻繁にファイルに変更を加えるかによって決まります。データをバックアップする際の基本ルールの 1 つは、失ったファイルを元の状態に戻すのにどのくらいの時間がかかるかを判断することです。午前 9 時から午後 5 時までずっとファイルに変更を加えるような仕事をしている人であれば、正午にファイルを失った場合、そのファイルの内容を失った時点の状態に戻すには 3 時間かかることとなります（元の状態に戻すことが可能な場合）。

データを失わないようにする最も安全な方法は、定期的にファイルのコピーを作成することです。まず、重要度の高いファイルを使って作業している場合には、1～2 時間に一度、別のディスクやパーティション、またはネットワークに接続している場合はネットワークボリュームにファイルをコピーするようにします。次に、1 日に一度、作業ファイルの完全なバックアップを作成します。先に述べたとおり、このバックアップも別のディスクやパーティション、または CD-ROM や Zip カートリッジなどのリムーバブルメディアに対して行います。

.Mac に加入している場合は、Intego Personal Backup X を使用して、選択したフォルダを iDisk にバックアップできます。バックアップするソースフォルダを選択してスクリプトを作成し、そのコピー先として iDisk の Documents、Music、または Picture フォルダを指定します。

ファイルを使用したかどうかにかかわらず、週に 1 回すべてのファイルのバックアップを作成するとよいかもしれません。Intego Personal Backup X を使用すれば、インクリメンタルなバックアップを行うことができます。つまり、変更が加えられたファイルだけを新しいファイルに置換できるのです。また、この週 1 回のバックアップをコンピュータから離れた場所に保管しておけば、火事やその他の災害から保護できます。これらのバックアップデータはいつでも利用できるようになっています。ま



第 2 章 – バックアップの概要

た、普段使用するためのデータのバックアップとして、圧縮形式のディスクイメージにファイルのアーカイブを作成することもできます。

「アプリケーション」フォルダをバックアップしておけば、ディスク問題が発生した場合に多くのアプリケーションをインストールし直すという手間を省くことができます。ただし、この方法で復元したアプリケーションがすべて正常に機能するとは限りません。アプリケーションの中には、少数とは言え、ハードディスク上の別の領域にファイルをインストールするものがあるからです。

アップグレードを行う前にオペレーティングシステム全体をバックアップする人もいます。Intego Personal Backup X を使用すると、起動ボリューム全体のクローンを作成できます。そうすれば、アップグレード操作中で何か問題が発生しても、システム全体を置換することで、インストールし直さずに作業に戻ることができます。致命的なディスク問題が発生した場合やそのほかの理由でコンピュータを起動できない場合に備えて、機会があるときにお使いの Mac OS X の起動ボリュームをバックアップしておくといよいでしょう。起動ボリュームを USB や Firewire ドライブなどの外付けのハードディスクにバックアップしておけば、そのディスクから Mac を起動し、Intego Personal Backup X を使って簡単にシステムを復元できます。

どのような状況でコンピュータを使用する場合でも、定期的にバックアップを行うこと、および自分に都合の良いバックアップ方法を構築しておくことをお勧めします。自宅で Mac を使用している場合は、すべてのデータをバックアップするのに Zip ドライブまたは空の CD-ROM が 1 個あれば十分かもしれません。しかし、会社内でコンピュータを使用している場合は、複数の CD-ROM、あるいはハードディスク、テープドライブ、またはその他のネットワーク記憶システムなどの外付けの装置が必要になる場合があります。



バックアップのシナリオ

コンピュータの用途に応じて、さまざまなバックアップ方法があります。たとえば、コンピュータを自宅、教育機関、または大企業のいずれで使用しているかによって、データのバックアップ方法も異なってきます。Intego Personal Backup X は、簡単なバックアップから複雑なバックアップまで様々なニーズに対応できます。以下に、Intego Personal Backup X の使用例をいくつか紹介します。

データを外部メディアにバックアップする

自宅でコンピュータを使用しているユーザの場合は、おそらくバックアップするデータがそれほど多くないため、Zip カートリッジまたは CD-ROM(書き込み可能または再書き込み可能のいずれか)を使用するのが理想的です。Intego Personal Backup X を使用して「ホーム」フォルダ(重要なすべてのデータが含まれているフォルダ)をコピーします。この操作を行うには、単に「ホーム」フォルダのアイコンを「Intego Personal Backup X」ウインドウの「ソース」セクション上にドラッグし、Zip カートリッジまたは CD-ROM をウインドウの「コピー先」セクション上にドラッグします。



第 2 章 – バックアップの概要

その後「バックアップ」ボタンをクリックするだけで、「ホーム」フォルダ全体が Zip カートリッジまたは CD-ROM にバックアップされます。(CD-ROM には、650 または 700 メガバイトのデータを保存でき、Zip カートリッジには 100、250、または 780 メガバイトのデータを保存できます。バックアップするデータの量に応じて適切なメディアを選択してください。)

データを内部または外部ボリュームにバックアップする

自営業を営んでいるユーザの場合は、重要なデータを定期的にバックアップする必要があります。バックアップの回数が多いのに超したことはありませんが、最低でも 1 日に 1 回はバックアップを行った方がよいでしょう。ファイルを失うと、もう一度同じ仕事を繰り返さなければなりません。そうなれば、時間も費用もかかります。

このような用途にコンピュータを使用している場合には、データを 2 つの異なるメディアにバックアップしておくといよいでしょう。たとえば、お使いの Mac に複数のハードディスクがある場合や、ドライブが複数のパーティションに分かれている場合には、まずデータを別のボリューム(内部)にバックアップし、次に同じデータをネットワークボリューム、iDisk、外付けのハードディスク、テープドライブ、またはその他のメディア(外部)にバックアップします。

このシナリオの場合も同様に、作業ファイルを「Personal Backup X」ウインドウの「ソース」セクション上にドラッグし、コピー先のボリュームを「コピー先」セクション上にドラッグします。



第 2 章 – バックアップの概要



その後、「バックアップ」ボタンをクリックすると、バックアップ操作が始まります。

さらに高度なバックアップを実行したい場合には、Intego Personal Backup X のバックアップスクリプト機能を使用して、データを自動的にバックアップまたはアーカイブするスクリプトを 1 つまたは複数個作成できます。バックアップがいつ実行されるかを覚えておく必要もありません。Intego Personal Backup X は、予定の時刻にバックグラウンドでスクリプトを実行します。バックアップスクリプトを作成および使用方法については、第 6 章「バックアップスクリプトの作成」を参照してください。

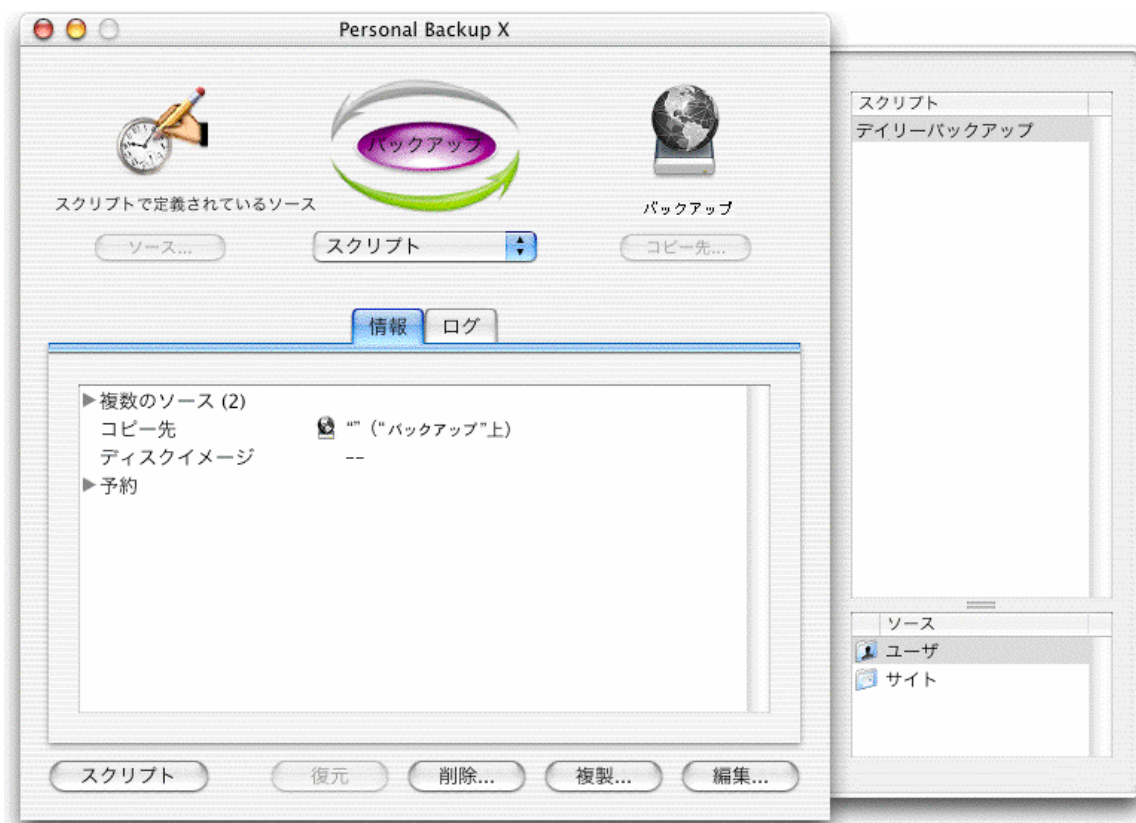
デイリーバックアップサイクルを実行する

会社の規模が大きいほど、バックアップするデータの量も増え、ファイルの重要度も増します。このような場合には、デイリーバックアップサイクルを実行するのが最も有効な方法です。普段のバックアップに加え、Intego Personal Backup X を使って一日の終わりにデータをネットワークボリュームにバックアップします。これを行う最も良い方法は、月曜日から金曜日までの各曜日に対応する 5 個のディスクイメージファイルを作成し、データをこれらのディスクイメージにバックアップするこ

第 2 章 – バックアップの概要

とです。つまり、月曜日には、先週の月曜日のディスクイメージを新しいディスクイメージに置き換えます。この方法を使うと、たとえ 1 つのバックアップが壊れた場合でも、あと 4 日分のバックアップが残っていることになります。

Intego Personal Backup X の詳細設定モードを使用すれば、毎日自動的に 1 つのディスクイメージを作成し、ネットワークボリュームをマウントして、すべてのファイルをコピーする一連のスクリプトを作成できます。



バックアップスクリプトを作成および使用する方法については、第 6 章「バックアップスクリプトの作成」を参照してください。

第2章 – バックアップの概要

複数の「ユーザ」フォルダをまとめてバックアップする

Mac OS X は複数のユーザを考慮したオペレーティングシステムであるため、各ユーザがそれぞれ「ホーム」フォルダを持てるようになっています。このフォルダには、各ユーザの書類、環境設定、および他の個人用ファイルが含まれています。多くのユーザが利用するネットワークを管理している場合は、これらの「ホーム」フォルダを定期的にバックアップする必要があります。

Intego Personal Backup X の詳細設定モードを使用すると、すべてのユーザの「ホーム」フォルダをまとめて任意のボリュームに自動または手動でコピーするスクリプトを作成できます。このスクリプトを作成してから「バックアップ」ボタンをクリックするだけで、すべての操作が自動的に行われます。



第 2 章 – バックアップの概要

バックアップスクリプトを作成および使用方法について詳しくは、第 6 章「バックアップスクリプトの作成」を参照してください。

実際にバックアップを行う際には、保護するデータのタイプや状況が上記のシナリオとは完全に一致していないかもしれません。しかし、上記のシナリオから、Intego Personal Backup X を使用することの利点がある程度理解できたのではないのでしょうか。第 6 章「バックアップスクリプトの作成」では、Intego Personal Backup X の他のオプションを紹介します。あなたのデータを保護するため、Intego Personal Backup X を様々なバックアップ目的にお役立てください。



3 – インストール



システム要件

- 公式にサポートされている Mac OS X 互換コンピュータ
- Mac OS X 10.1.1 以降、または Mac OS X Server 10.1.1 以降
- 10 MB の空きハードディスク容量
- 画面解像度 800 x 600 以上

注記: Intego Personal Backup X3 には、Mac OS X 10.3 Panther、OS X 10.2 Jaguar、および OS X 10.1.1 以降との互換性があります。

Intego Personal Backup X をインストールする

Intego Personal Backup X のインストールはとても簡単です。Intego Personal Backup X の CD-ROM をコンピュータの CD-ROM ドライブに挿入します。Intego Personal Backup X をダウンロードして入手した場合は、Intego Personal Backup X.dmg というディスクイメージファイルがあります。このファイルをダブルクリックすると、ディスクイメージが開いてデスクトップにマウントされます。Intego Personal Backup X インストーラ、Read me ファイル、および Intego Personal Backup X マニュアル(本書)を含むウインドウが開きます。

まず Read me ファイルを読み、最新の変更情報がある場合はその内容を確認します。

次に、Intego Personal Backup X インストーラをダブルクリックします。



第3章 – インストール

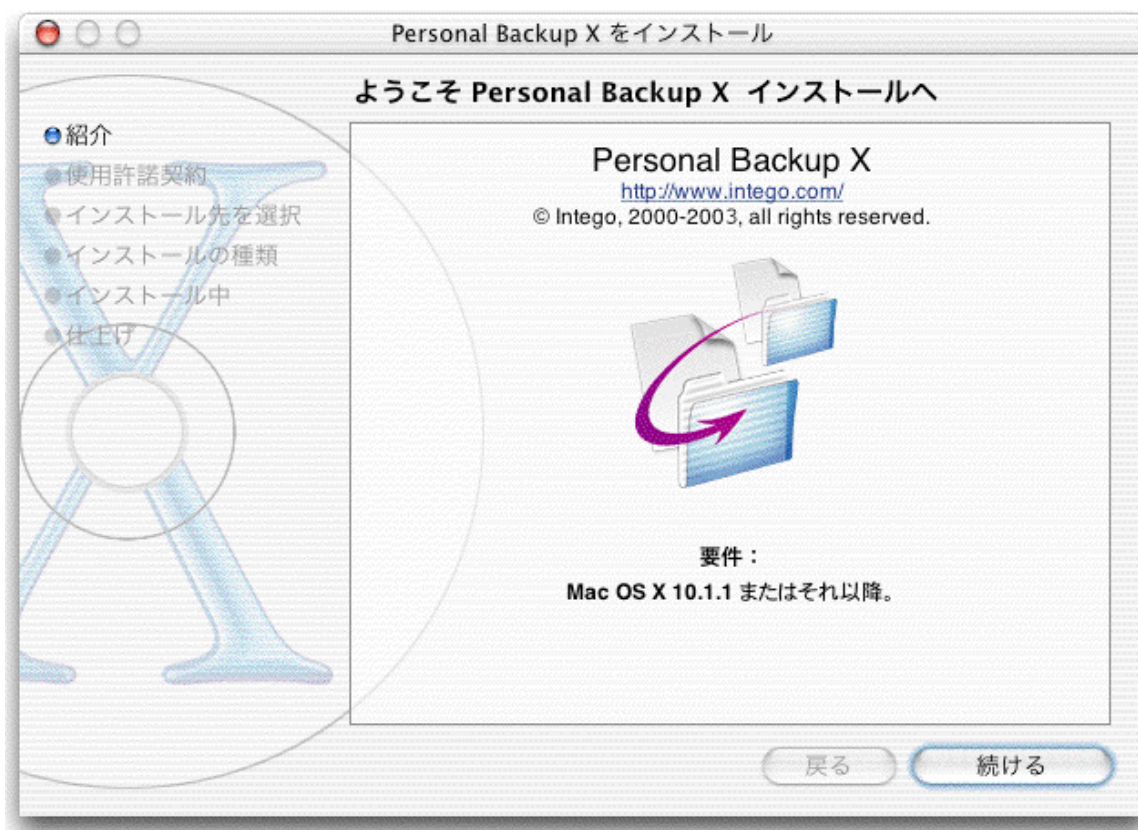


ウインドウが開き、「インストール」および「アンインストール」という 2 つのオプションが表示されます。Intego Personal Backup X をインストールするには、「インストール」ボタンをクリックします。プログラムをアンインストールする必要がある場合は、「アンインストール」ボタンをクリックします。



第3章 – インストール

ウインドウが開き、Intego Personal Backup X をインストールするには管理者用パスワードを入力しなければならないという旨のメッセージが表示されます。表示されたダイアログに自分のパスワードを入力するか、ロックをクリックして自分のパスワードを入力します(OS X 10.1)。パスワードを入力し、「OK」をクリックします。次のウインドウが表示されます。

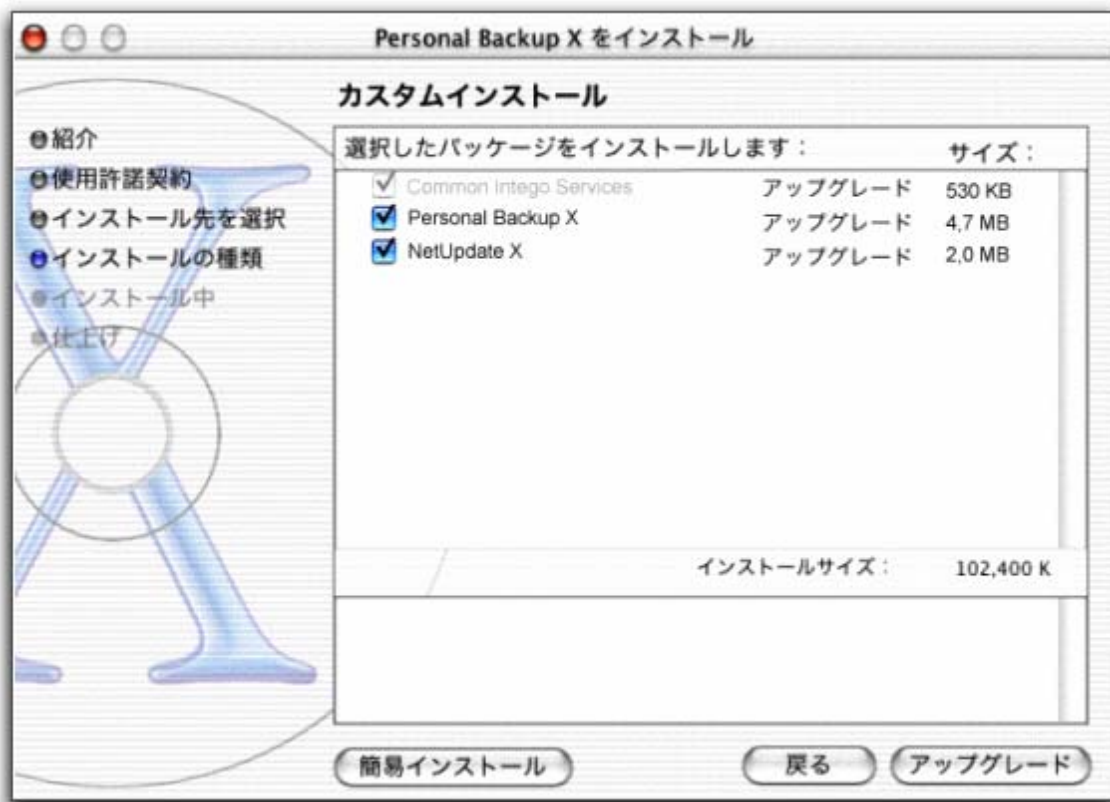


「続ける」をクリックしてインストールを続行します。Intego ソフトウェアの使用許諾契約が表示されます。「続ける」をクリックし、この使用許諾契約に同意する場合は「同意します」をクリックします。同意しない場合は、「同意しません」をクリックしてインストールを終了します。

第3章 – インストール

次のウインドウには、コンピュータ内にある使用可能なディスクまたはボリュームが表示されます。Intego Personal Backup X をインストールするディスクまたはボリュームを選択し、「続ける」をクリックします。

Intego Personal Backup X をインストールするには「インストール」をクリックします。このオプションを選択すると、基本インストールが実行されます。カスタムインストールを実行したい場合は、「カスタマイズ」をクリックします。次のウインドウが表示されます。



このウインドウで、インストールする項目を選択します。「Common Intego Services」チェックボックスは淡色表示になっています。これは、この項目を必ずインストールしなければならないことを意



第3章 – インストール

味します。Intego Personal Backup X と NetUpdate については、いずれか一方または両方ともインストールするように選択できます。お使いのコンピュータに他の Intego プログラムがインストールされている場合は、アップグレードのオプションが表示されます。つまり、すべての Intego プログラムで使用される特定のコンポーネントは再びインストールされないようになっています。

インストールが完了したら、コンピュータを再起動する必要があります。



Intego Personal Backup X を登録する

コンピュータを再起動すると、Intego Personal Backup X が起動します(このアプリケーションは「アプリケーション」フォルダ内にあります)。その後、登録用のプログラムが起動し、次のウインドウが表示されます。



シリアル番号の入力

名前:

会社:

シリアル番号:

シリアル番号は XXXX-XXXX-XXXX-XXXX-12345 という形式で記されています

デモは 30 日間機能します

デモ OK

自分の名前、会社に所属している場合はその会社名、およびシリアル番号を入力します。シリアル番号は、Intego Personal Backup X CD-ROM のステッカー上に記載されています。登録作業が完了すると、Intego Personal Backup X が開きます。



評価モードの Intego Personal Backup X を使用する

Intego Personal Backup X には評価モードがあり、製品を購入する前にその機能や使い心地などを試せるようになっています。評価モードの Intego Personal Backup X を使用するには、登録画面が表示されたときに「デモ」をクリックします。

評価モードの Intego Personal Backup X は 30 日間機能します。この期間が終わるときに、Intego Personal Backup X のライセンスを購入するか、またはプログラムを削除することができます。

評価セッションの残り時間を確認するには、「Personal Backup X」メニューの「シリアル番号の入力…」を選択します。この画面には、プログラムが評価モードで実行されていることとその残り時間が示されます。ライセンスを購入したら、ここにシリアル番号を入力します。そうすれば、プログラムを標準モードで実行できるようになります。



4 – クイックスタート



Intego Personal Backup X で最初のバックアップを行う

Intego Personal Backup X は、「アプリケーション」フォルダ内にインストールされています。このフォルダを開くと、このプログラムのアイコンが表示されます。



このアイコンをダブルクリックして Intego Personal Backup X を開くと、バックアップを実行するためのウインドウが表示されます。Intego Personal Backup X を初めて開いたとき、このウインドウは次のように表示されます。



初めてバックアップを実行する場合は、バックアップするファイルが含まれているフォルダをウインドウの左側にある「ここにドラッグ...」というテキスト上にドラッグし、同様にコピー先のフォルダまたはボリュームを右側のセクションにドラッグします。ウインドウの表示が次のようになります。



第4章- クイックスタート



バックアップを実行するには、「バックアップ」ボタンをクリックするだけです。Intego Personal Backup X によって、ソースフォルダ内のすべてのファイルがコピー先のフォルダまたはボリュームにバックアップされます。デフォルトでは、コピーすることが許可されていないファイルを除き、すべてのファイルがコピーされます。バックアップを更新するときにソース内のファイルが変更されていると、コピー先にある同じファイルが自動的に新しいバージョンに置き換えられます。ただし、ソース内のファイルが削除されている場合、それらのファイルはコピー先に残ります。

ファイルを復元する方法、2 個のボリュームを同期化する方法、ボリュームのクローンを作成する方法、圧縮形式のディスクイメージにファイルをアーカイブする方法など、Intego Personal Backup X の使い方について詳しくは、第 5 章「Intego Personal Backup X の使用」を参照してください。独自のバックアップスクリプトを作成し、Intego Personal Backup X の機能やオプションを自由自在に操作する方法については、第 6 章「バックアップスクリプトの作成」を参照してください。

5- Intego Personal Backup X の使用



第 5 章- Intego Personal Backup X の使用

Intego Personal Backup X は、使いやすいパワフルなプログラムです。このプログラムを使うと、データのバックアップ、復元、同期などの操作を行ったり、ボリュームのクローンを作成したりできるほか、圧縮形式のディスクイメージにファイルをアーカイブすることも可能です。Intego Personal Backup X は、コンピュータ内のファイルを自動または手動でリムーバブルメディア（書き込み可能な CD-ROM や Zip カートリッジなど）、ハードディスク上のパーティション、ネットワークボリューム、外付けのハードディスク（USB、Firewire、または SCSI）、またはディスクイメージファイルにバックアップします。また、Intego Personal Backup X を使って、バックアップを復元したり、2 台のコンピュータ間（たとえば、デスクトップコンピュータと iBook または PowerBook との間）でデータを同期化したり、Mac OS X ボリュームのクローンを作成したりできます。

Intego Personal Backup X は、「アプリケーション」フォルダ内にインストールされています。このフォルダを開くと、このプログラムのアイコンが表示されます。



このアイコンをダブルクリックして Intego Personal Backup X を開くと、バックアップを実行するためのウインドウが表示されます。Intego Personal Backup X を初めて開いたとき、このウインドウは次のように表示されます。

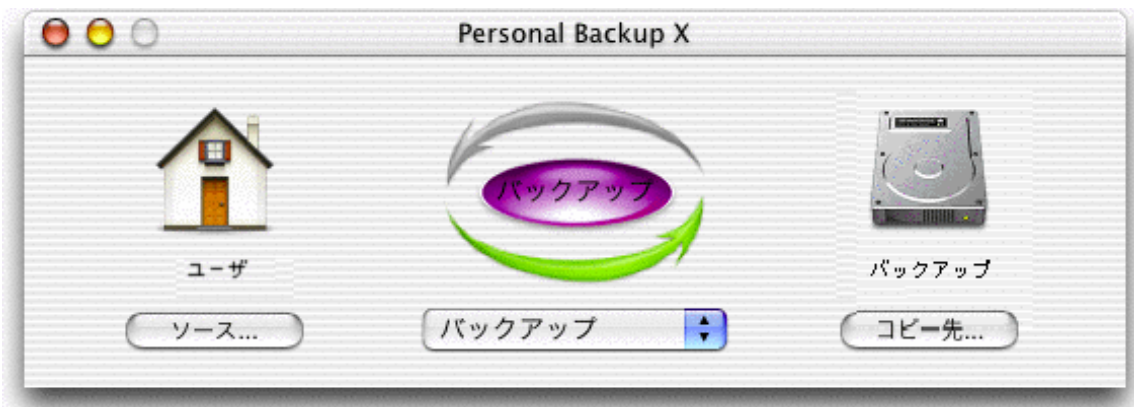


第 5 章- Intego Personal Backup X の使用



データをバックアップする

バックアップを設定するには、まず「Intego Personal Backup X」ウインドウのポップアップメニューで「バックアップ」を選択します。次に、バックアップするファイルが含まれているフォルダをウインドウの左側にある「ここにドラッグ…」というテキスト上にドラッグし、同様にコピー先のフォルダまたはボリュームを右側のセクションにドラッグします。ウインドウの表示が次のようになります。



「ソース…」および「コピー先…」ボタンをクリックしてソースおよびコピー先のフォルダまたはボリュームを選択することもできます。これらのボタンをクリックすると、Mac OS X の標準ファイルナビゲーター

第 5 章- Intego Personal Backup X の使用

シヨンドialogが開きます。使用するフォルダまたはボリュームを選択し、「開く」をクリックします。そのフォルダまたはボリュームがソースまたはコピー先として選択されます。

注記: ソースフォルダまたはボリュームを選択する場合には、バックアップするファイルが含まれているフォルダまたはボリュームを選択します。コピー先を選択する場合には、ソースフォルダまたはボリュームのコピー先となるフォルダまたはボリュームを選択します。上の例では、ユーザの「ホーム」フォルダが「Backup」ボリュームにバックアップされます。この後、続けてバックアップを実行すると、「Backup」ボリューム内の「ホーム」フォルダにある古いファイルが新しいファイルに置き換えられます。

Mac OS X システムの中でバックアップすべき最も重要なフォルダは、上の図に示す「ホーム」フォルダです。このフォルダには、書類や環境設定など、ユーザアカウントに固有なファイルがすべて含まれています。しかし、このフォルダに音楽、映画、ピクチャなどが含まれている場合は、そのサイズが非常に大きくなることがあります。

そのほかの重要なフォルダとして「書類」フォルダがあります。このフォルダは「ホーム」フォルダ内にあります。このフォルダにすべての個人用書類を保存している場合は、このフォルダもバックアップの重要な対象として考慮する必要があります。



第 5 章- Intego Personal Backup X の使用

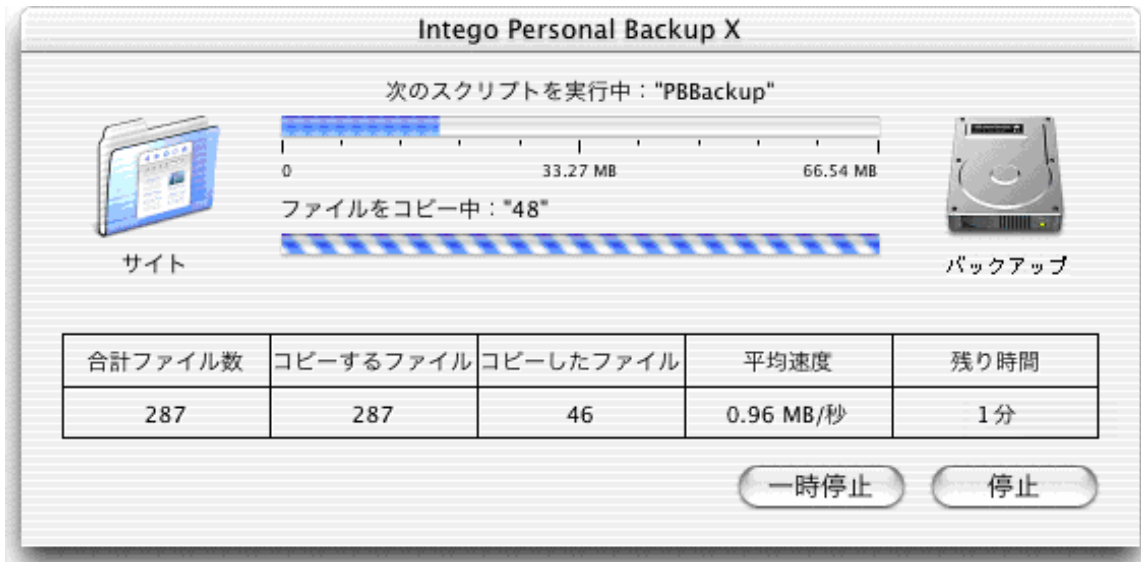


バックアップを実行するには、「バックアップ」ボタンをクリックするだけです。Intego Personal Backup X によって、ソースフォルダ内のすべてのファイルがコピー先のフォルダまたはボリュームにバックアップされます。デフォルトでは、ゴミ箱内のファイルとコピーすることが許可されていないファイルを除き、すべてのファイルがコピーされます。バックアップを更新するときにソース内のファイルが変更されていると、コピー先にある同じファイルが自動的に新しいバージョンに置き換えられます。ただし、ソース内のファイルが削除されている場合、それらのファイルはコピー先に残ります。



第 5 章- Intego Personal Backup X の使用

バックアップ操作が開始されると、メインウィンドウにバックアップの進行状況バーが表示されます。



この進行状況バーは、バックアップの進行状況を示すものです。

デスクトップをクリックするか、別のアプリケーションをアクティブ (Dock でそのアプリケーションを選択するか、またはそのウィンドウをクリック) にすると、Intego Personal Backup X は非アクティブ (バックグラウンドで実行) になり、アクティビティウィンドウが縮小します。ただし、バックアップ操作は継続して実行されます。



第 5 章- Intego Personal Backup X の使用

縮小ウインドウをクリックすると、ウインドウが拡張され、Intego Personal Backup X がアクティブになります。Dock 内のアイコンをクリックしても、Intego Personal Backup X がアクティブになります。バックアップ操作はいつでも停止できます。バックアップ操作を停止するには「停止」ボタンを、一時停止するには「一時停止」ボタンをクリックします。バックアップを一時停止すると、このボタンは「再開」ボタンに変わります。バックアップ操作を続行するには、この「再開」ボタンをクリックします。

Intego Personal Backup X の終了時には、最後に実行したバックアップ設定が記憶されます。次にプログラムを使用したときには、終了したときと同じ内容のウインドウが表示されます。したがって、実行するバックアップの設定が前回と同じ場合は、ソースおよびコピー先をドラッグまたは選択し直す必要がありません。「バックアップ」をクリックするだけで、残りの作業が自動的に行われます。



データを復元する

Intego Personal Backup X を使用すると、バックアップ操作と同じくらい簡単にデータを復元できます。ハードディスクのクラッシュやそのほかの問題が発生したためにファイルを失った場合には、Intego Personal Backup X を使って、すべてのファイルを前回バックアップしたときの状態で復元することができます。注記：前回のバックアップ以降に行われた既存ファイルへの変更や新しいファイルは復元されません。これもバックアップを頻繁に行うべき理由のひとつです。

ファイルを復元するには、まず Intego Personal Backup X を開きます。記憶されている前回のバックアップの内容が表示されます（「Intego Personal Backup X」ウインドウに前回と同じソースとコピー先が表示されます）。復元したいファイルがこのバックアップに含まれている場合は、ポップアップメニューから「復元」を選択します。



「復元」をクリックすると、コピー先のすべてのファイルがソースにコピーされます。デフォルトでは、コピーすることが許可されていないファイルを除き、すべてのファイルがコピーされます。バックアップを復元すると、ソース内のすべてのファイルがコピー先内のバックアップファイルに置き換えられます。

第 5 章- Intego Personal Backup X の使用

注記: ハードディスクがクラッシュしたり、誤って削除したりしたためにファイルを失った場合、フォルダのバックアップがあれば、Intego Personal Backup X の復元機能を使ってそれらのファイルを復元できます。ただし、その場合、ソースフォルダまたはボリューム内のすべてのファイルが置き換えられることに留意してください。ソースフォルダ内に更新されたファイルがある場合、それらのファイルは古いバージョンに置き換えられます。そのため、このような場合には、復元操作を行う前に更新済みのファイルを別の場所へ移しておき、復元後にそれらのファイルをコピーし直して上書きします。バックアップから復元したいファイルが 1~2 個だけの場合には、Finder を使ってそのファイルをコピーできます。Intego Personal Backup X では、データがファイルおよびフォルダ形式で保存されるため、任意のファイルをコピー先のフォルダまたはボリュームにコピーまたは移動できます。



データを同期化する

デスクトップ型の Macintosh と iBook または PowerBook など、2 台のコンピュータを使って作業する場合、両方のコンピュータのすべてのファイルを最新の状態に保つことは容易ではありません。Intego Personal Backup X があれば、ワンクリックするだけで 2 台のコンピュータ内のファイルを同期化することができます。最新バージョンのファイルが両方のコンピュータにコピーされるため、同期操作が完了したときには、まったく同じデータが両方のコンピュータに含まれることになります。

2 台のコンピュータ間でファイルを同期化するには、それらのコンピュータが互いに接続されている必要があります。これには、次の 2 通りの方法があります。ネットワークを介して 2 台のコンピュータを接続する方法（ローカルエリアネットワーク、または各コンピュータの Ethernet ポートにクロスオーバーケーブルを接続 – ネットワークの設定について詳しくは Mac OS X のヘルプを参照）と、Firewire ケーブルを使って 2 台のコンピュータを直接接続し、一方をターゲットモードで起動する方法です。

注記: 最近の Macintosh コンピュータはすべてターゲットモードで起動できます。これにより、一方のコンピュータを他方のコンピュータのハードディスクとしてマウントすることができます。この操作を行うには、まず 2 台のコンピュータを Firewire ケーブルで接続します。ターゲットモードで起動させるコンピュータの電源は切っておきます。そのコンピュータを起動する際に、キーボードの T キーを押したまま電源を入れます。すると、その画面に Firewire のシンボルが表示され、まるでそのコンピュータが外部ハードディスクであるかのように他方のコンピュータにマウントされます。これで、任意のボリュームまたはフォルダを同期用に選択できます。



フォルダを同期化する

2 台の異なるコンピュータ間で（ネットワークを介して、または直接接続して）2 つのフォルダを同期化するには、まず「Intego Personal Backup X」ウインドウのポップアップメニューで「同期」を選択します。その後、ソースフォルダを選択します。このフォルダを「ソース...」ボタンの上の「ここにドラッグ...」セクションにドラッグするか、または「ソース...」ボタンをクリックしてソースフォルダまで移動し、そのフォルダを選択します。

もう一方のコンピュータ内のフォルダを「コピー先...」ボタンの上の「ここにドラッグ...」セクションにドラッグするか、または「コピー先...」ボタンをクリックしてコピー先フォルダまで移動し、そのフォルダを選択します。



「同期」ボタンをクリックすると、同期処理が始まります。Intego Personal Backup X は、まず各フォルダの内容を調べ、それぞれの項目を比較して、変更日が新しい方の項目を選び出します。一方で新しいファイルまたはフォルダが見つかったら、それらのファイルまたはフォルダは他方にコピーされます。また、一方で削除されているファイルまたはフォルダが見つかったら、そのファイルまたはフ

第 5 章- Intego Personal Backup X の使用

フォルダは他方からも削除されます。同期処理を行うと、互いにコピーし合うことにより、まったく同じ 2 つのフォルダが出来上がります。

注記: 同期処理を行うと、まったく同じフォルダが 2 つ作成されます。2 つのフォルダを初めて同期化する場合、Intego Personal Backup X はソースおよびコピー先フォルダのすべてのファイルおよびフォルダの名前を記録します。Intego Personal Backup X は、間違っただけでファイルが削除されていないことを確認するために、すべての既存ファイルを両方のフォルダにコピーします。ただし、その後の同期処理では、どのファイルが作成または削除されたかが分かっているため、新しいファイルまたは変更されたファイルだけをコピーします。つまり、一方でファイルが削除されている場合は、他方からもそのファイルが削除されます。また、一方でファイルが作成されている場合は、そのファイルが他方にもコピーされます。



ボリュームを同期化する

2 台の異なるコンピュータ間で(ネットワークを介して、または直接接続して) 2 つのボリュームを同期化するには、まず「Intego Personal Backup X」ウインドウのポップアップメニューで「同期」を選択します。その後、ソースボリュームを選択します。このボリュームを「ソース...」ボタンの上の「ここにドラッグ...」セクションにドラッグするか、または「ソース...」ボタンをクリックしてソースボリュームまで移動し、そのボリュームを選択します。

もう一方のコンピュータ内のボリュームを「コピー先...」ボタンの上の「ここにドラッグ...」セクションにドラッグするか、または「コピー先...」ボタンをクリックしてコピー先ボリュームまで移動し、そのボリュームを選択します。



上の図では、ソースボリュームとして iMac のハードディスクが選択されており、コピー先としてターゲットモードで起動した iBook のハードディスクが選択されています。ターゲットモードについては、本節の始めの部分を参照してください。

第 5 章- Intego Personal Backup X の使用



上の図では、ソースボリュームとして iMac のハードディスクが選択されており、コピー先としてネットワーク上で iMac に接続されている iBook のハードディスクが選択されています。

「同期」ボタンをクリックすると、同期処理が始まります。Intego Personal Backup X は、まず各ボリュームの内容を調べ、それぞれの項目を比較して、変更日が新しい方の項目を選び出します。一方で新しいファイルまたはフォルダが見つかったら、それらのファイルまたはフォルダは他方にコピーされます。また、一方で削除されているファイルまたはフォルダが見つかったら、そのファイルまたはフォルダは他方からも削除されます。同期処理を行うと、互いにコピーし合うことにより、まったく同じ 2 つのボリュームが出来上がります。

注記: 同期処理を行うと、まったく同じボリュームが 2 つ作成されます。2 つのボリュームを初めて同期化する場合、Intego Personal Backup X はソースおよびコピー先ボリュームのすべてのファイルおよびフォルダの名前を記録します。Intego Personal Backup X は、間違っただけでファイルが削除されていないことを確認するために、すべての既存ファイルを両方のボリュームにコピーします。ただし、その後の同期処理では、どのファイルが作成または削除されたかが分かっているため、新しいファイルまたは変更されたファイルだけをコピーします。つまり、一方でファイルが削除されて

第 5 章- Intego Personal Backup X の使用

いる場合は、他方からもそのファイルが削除されます。また、一方でファイルが作成されている場合は、そのファイルが他方にもコピーされます。

ボリュームのクローンを作成する

Mac OS X の場合、起動ボリュームを別のボリュームまたはディスクにコピーするだけでは、完全なコピーを作成できません。起動ボリュームには多くの不可視状態のファイルがあるため、普通にコピーしても不完全なボリュームしかできず、そのボリュームからコンピュータを起動することはできません。起動ボリュームなどのボリュームをバックアップする場合は、ボリュームのクローンを作成します。クローンの作成には、次の 2 つの目的があります。

- ボリュームのクローンからお使いの Mac を起動できます。この操作を行うには、Option (または Alt) キーを押したまま、そのボリュームを選択します。このボリュームが内部ボリュームであるか外部ボリュームであるかは関係ありません。複数の Mac がある場合には、この方法を用いて、外付けのハードディスクを起動ボリュームとして使用できます。
- 重要なアップグレードを行う前や新しいアプリケーションをインストールする前に、バックアップとしてボリュームのクローンを作成します。そうすれば、システムに問題が発生しても心配はありません。問題が発生した場合には、このボリュームのクローンから Mac を起動し、起動ボリュームにそのクローンを作成し直します。これにより、お使いの Mac がアップグレードの前の状態またはソフトウェアをインストールする前の状態に戻ります。

注記: ボリュームのクローンを作成するには、管理者としてのアクセス権が必要です。クローン処理を始める前に、管理者用パスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。ただし、ネットワークを介してボリュームのクローンを作成することはできません。



第 5 章- Intego Personal Backup X の使用

起動可能な Mac OS X 起動ボリュームのクローンを作成するには、まず次の操作を行います。

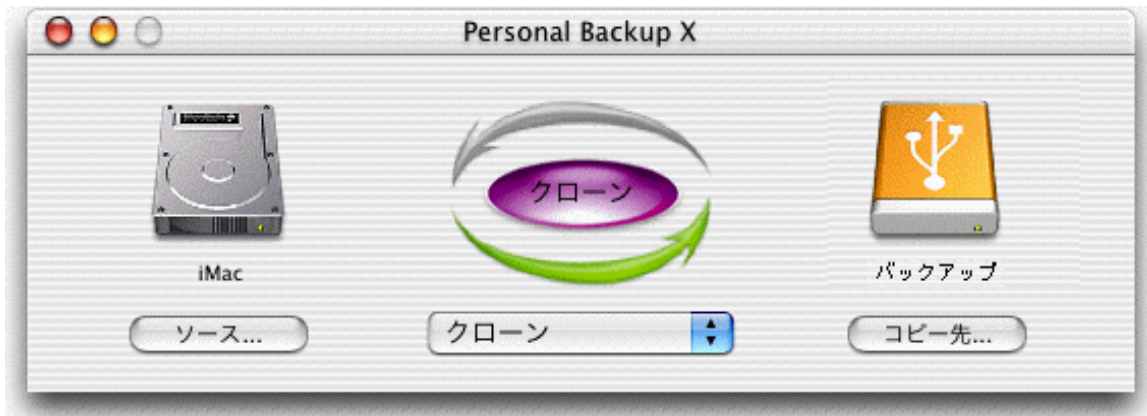
1. Finder でソースボリュームとコピー先ボリュームのアイコンを選択し、各ボリュームに関する情報を表示します。この操作を行うには、「ファイル」メニューの「情報を見る」を選択するか、Command + I キーを押します。
2. 「情報」ウインドウで、「所有権とアクセス権」の横にある三角形をクリックして、そのセクションを拡張します。
3. 両方のボリュームについて「このボリューム上の所有権を無視する」チェックボックスがオフになっていることを確認します。

1 台のコンピュータ内で、あるいは(ネットワークを介して接続されている、または直接接続されている)2 台の異なるコンピュータ間で、ボリュームのクローンを作成して別のボリューム上に作成するには、まず「Intego Personal Backup」ウインドウのポップアップメニューで「クローン」を選択します。このボリュームを「ソース...」ボタンの上の「ここにドラッグ...」セクションにドラッグするか、または「ソース...」ボタンをクリックしてソースボリュームまで移動し、そのボリュームを選択します。

コピー先ボリュームを「コピー先...」ボタンの上の「ここにドラッグ...」セクションにドラッグするか、または「コピー先...」ボタンをクリックしてコピー先ボリュームまで移動し、そのボリュームを選択します。

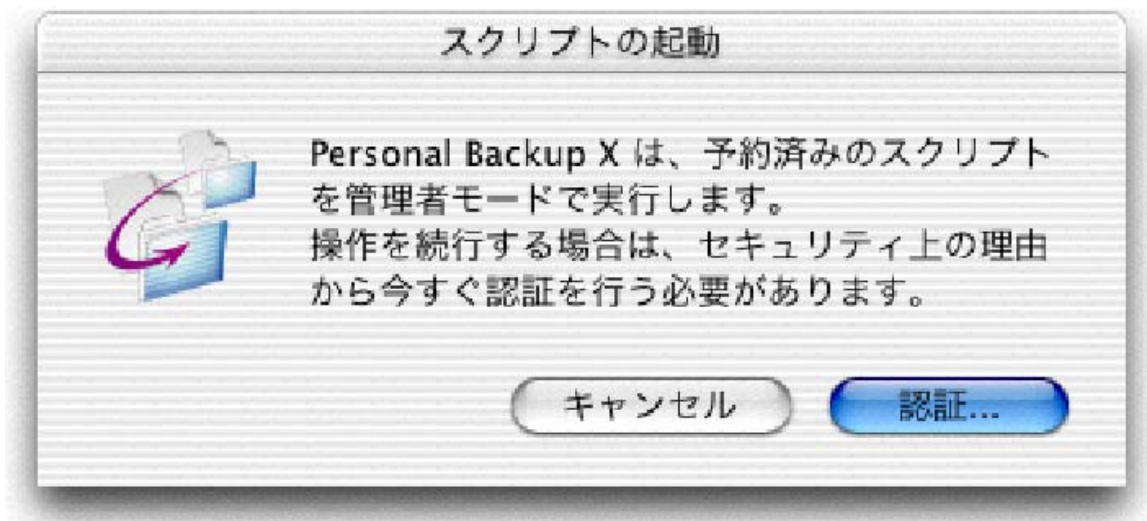


第 5 章- Intego Personal Backup X の使用



上の図は、iMac のクローンを外付けの Firewire ハードディスク上に作成する場合を示しています。

クローンの作成を開始するには、「クローン」ボタンをクリックします。管理者用パスワードの入力が求められることを説明したメッセージが表示されます。



第 5 章- Intego Personal Backup X の使用

管理者用パスワードを持っている場合は、「認証…」をクリックし、次に表示されるダイアログでパスワードを入力します。管理者用パスワードを持っていない場合は、「キャンセル」をクリックし、クローンの作成を中止してください。

ファイルをアーカイブする

アーカイブとは、Intego Personal Backup X によって作成される特殊なバックアップのことです。アーカイブ機能を使用すれば、圧縮形式のディスクイメージ内、つまり仮想ディスクを含むファイル内にソースフォルダまたはボリュームをバックアップできます。ディスクイメージファイルは、ダブルクリックするとボリュームとしてデスクトップ上にマウントされますが、マウントしていない状態では単なる 1 個のファイルです。

Intego Personal Backup X は、ファイルをアーカイブする際、まず適切なサイズのディスクイメージを作成し、そこにファイルをコピーした後、そのディスクイメージを圧縮します。これはとても便利な機能で、ファイルの種類によっては 20 ~ 80% の割合でファイルのサイズが小さくなるため、コンピュータ内のディスク容量を節約できます。アーカイブは 1 個のファイルで構成されており、必要に応じてどこにでも移動またはコピーできます。また、ディスクイメージファイルをマウントすれば、そこに含まれている任意のファイルを削除できます。ただし、インクリメンタルな方法でファイルをアーカイブすることはできません。注記：アーカイブ機能を使用できるのは、Mac OS X 10.2 またはそれ以降のバージョンだけです。

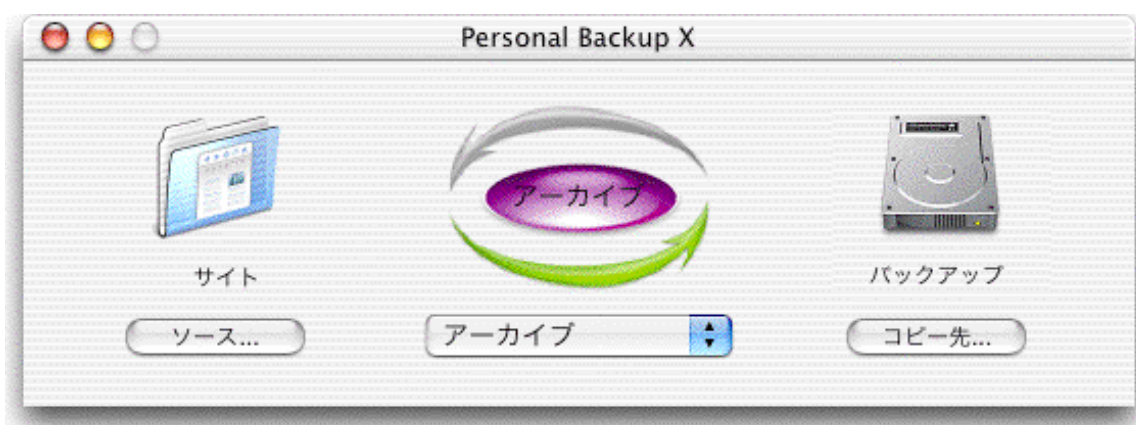
ファイルをアーカイブするには、まず「Intego Personal Backup X」ウィンドウのポップアップメニューで「アーカイブ」を選択します。その後、ソースフォルダまたはボリュームを選択します。このボリュー



第 5 章- Intego Personal Backup X の使用

ムを「ソース...」ボタンの上の「ここにドラッグ...」セクションにドラッグするか、または「ソース...」ボタンをクリックしてソースボリュームまで移動し、そのボリュームを選択します。

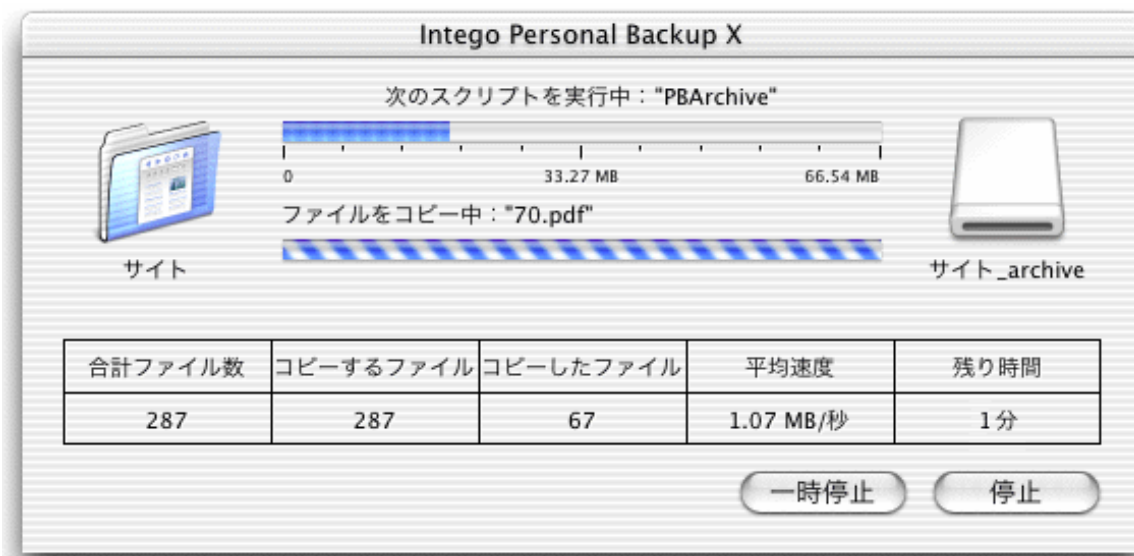
コピー先ボリュームを「コピー先...」ボタンの上の「ここにドラッグ...」セクションにドラッグするか、または「コピー先...」ボタンをクリックしてコピー先ボリュームまで移動し、そのボリュームを選択します。



アーカイブ操作を開始するには、「アーカイブ」ボタンをクリックします。ディスクイメージに必要なサイズが自動的に計算され、コピー先ボリュームに新しいディスクイメージが作成されます。その後、そのディスクイメージがマウントされ、ファイルのコピーが開始されます。ファイルのコピーが完了すると、そのディスクイメージが圧縮形式に変換され、マウント解除されます。

ファイルのコピー中、Intego Personal Backup X のアクティビティウインドウには、コピー先としてディスクイメージのボリュームが示されます。

第 5 章- Intego Personal Backup X の使用



作成されたディスクイメージファイルには、ソースフォルダまたはボリュームと同じ名前が使用され、.dmg という拡張子が付けられます。



このディスクイメージをマウントし、その中のファイルにアクセスするには、この .dmg ファイルをダブルクリックします。デスクトップ上にマウントされたディスクイメージの名前は、ソースフォルダまたはボリュームの名前に _archive が追加されたものとなります。このディスクイメージ内のファイルにアクセスするには、ディスクイメージのアイコンをダブルクリックします。ただし、このディスクイメージは読み込み専用です。つまり、ディスクイメージから別の場所にファイルをコピーすることはできますが、ディスクイメージ内にファイルをコピーすることはできません。ディスクイメージのマウントを解除するには、ディスクイメージをクリックして選択し、「ファイル」メニューの「取り出し」を選択するか、Command キーを押したまま E キーを押します。

第 5 章- Intego Personal Backup X の使用

注記: Intego Personal Backup X でアーカイブを作成する際には、圧縮形式のディスクイメージを作成するために、コピー先ボリュームに一時ファイル用の空きディスク容量が必要です。アーカイブ操作を正常に実行するためには、コピー先ボリュームに、コピーするファイルのサイズの約 1.5 ～ 2 倍の空きディスク容量がなければなりません。ファイルの圧縮率を事前に知ることはできないため、正常にアーカイブ用のディスクイメージを作成するには、コピー先ボリュームに 2 倍の空きディスク容量を確保しておくようにします。

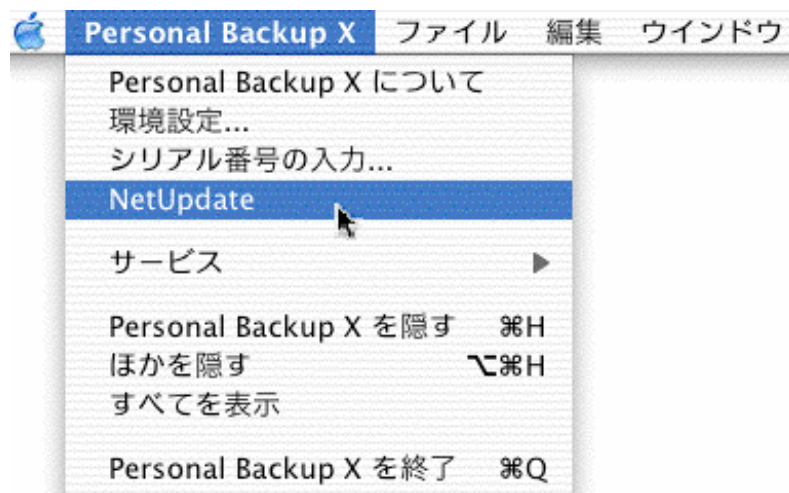


Intego Personal Backup X を更新する

NetUpdate

NetUpdate は、プログラムの更新版がリリースされているかどうかをチェックするために Intego 製品で使用される環境設定パネルです。この環境設定パネルは、Intego Personal Backup X や他の Intego プログラムをインストールするときに同時にインストールされます。NetUpdate は、これらのすべてのプログラムに対して更新があるかどうかをチェックし、お使いのコンピュータにインストールされているプログラムの更新をダウンロードします。

NetUpdate を開き、Intego Personal Backup X の更新があるかどうかをチェックするには、「Personal Backup X」メニューの「NetUpdate」を選択します。



NetUpdate の使い方について詳しくは、NetUpdate のユーザーズマニュアルを参照してください。



Intego Personal Backup X について

「Personal Backup X」メニューの「Personal Backup X について...」を選択すると、ウィンドウが開き、Intego Personal Backup X に関する情報が表示されます。このウィンドウには、バージョン番号、サポート番号（テクニカルサポートを受ける際に必要となる番号）、Intego の Web サイトや電子メールアドレスへのリンク、および Intego 社の所在地が記されています。

まだオンライン登録を済ませていない場合は、「オンライン登録...」ボタンをクリックすると、簡単にすばやく登録できます。このボタンをクリックすると、Intego Web サイトの登録ページが表示されます。



6 - バックアップスクリプトの使用



Intego Personal Backup X のスクリプトを操作する

Intego Personal Backup X の基本モードでは、ワンクリックするだけでデータをバックアップ、復元、同期、またはアーカイブしたり、ボリュームのクローンを作成したりできますが、詳細設定モードを使用すれば、Intego Personal Backup X のさまざまなオプションを活用して独自のバックアップスクリプトを作成できます。

Intego Personal Backup X の詳細設定モードでは、複数のソース(複数のフォルダ、ファイル、ボリューム)を選択したり、バックアップから除外するファイルを選択したり、バックアップ中に自動的にディスクイメージを作成したりできるほか、バックアップ、同期、アーカイブ、およびクローン作成を自動的に行う予約済みスクリプトを作成することも可能です。

Intego Personal Backup X の詳細設定モードにアクセスするには、「Personal Backup X」ウインドウのポップアップメニューで「スクリプト」を選択します。



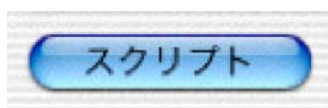
第6章 – バックアップスクリプトの使用

Intego Personal Backup X の詳細設定モードのウィンドウが表示されます。



このウィンドウは、2つのセクションから成っています。左側がメインウィンドウで、ここにはソースおよびコピー先セクション、操作実行ボタン、操作のタイプを選択するためのポップアップメニュー、またウィンドウの下部には「ログ」タブと「情報」タブがあります。右側には、定義したすべてのスクリプトが表示される引き出しがあります。

「スクリプト」ボタンをクリックすると、「スクリプト」引き出しの表示と非表示が切り替わります。



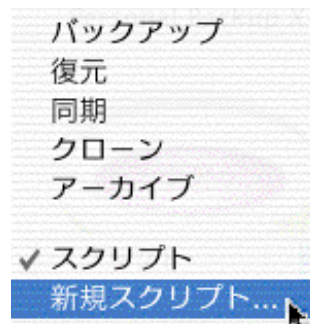
新規のバックアップスクリプトを作成する

バックアップスクリプトとは、バックアップ、同期、クローン作成、またはアーカイブの実行方法を Intego Personal Backup X に知らせるための一連の指示のことです。バックアップスクリプトには、多くのオプションを含めることができます。さらに、Intego Personal Backup X には、複雑なバックアップスクリプトでも簡単に作成できるようにするためのアシスタントが組み込まれています。

Intego Personal Backup X のバックアップスクリプトアシスタントを使用すると、スクリプトを作成するための一連の手順を順序よく実行できます。これらの手順には、以下の項目があります。

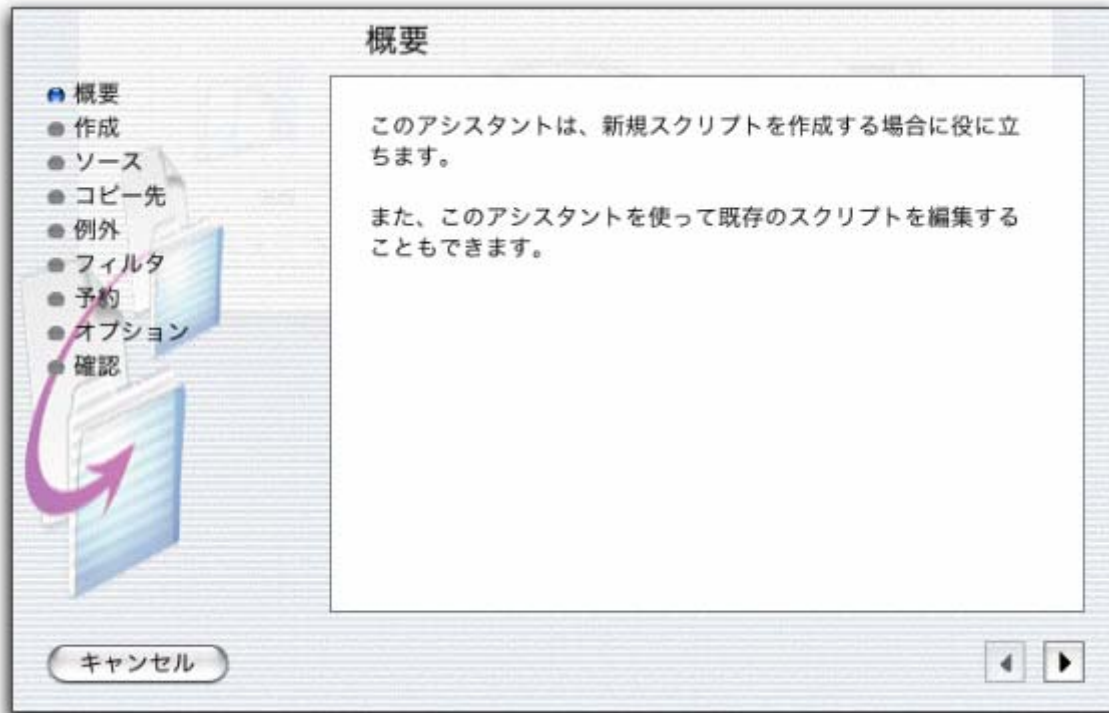
- 作成
- ソース
- コピー先
- 例外
- フィルタ
- 予約
- オプション
- 確認

新規のバックアップスクリプトを作成するには、ポップアップメニューから「新規スクリプト...」を選択します。



第 6 章 – バックアップスクリプトの使用

Intego Personal Backup X のスクリプトアシスタントが開きます。



新規スクリプトの作成を開始するには、右矢印をクリックします。左矢印をクリックすると、必要に応じて前の画面に戻ることができます。



スクリプトアシスタントを終了する場合は、「キャンセル」をクリックします。



第6章 – バックアップスクリプトの使用

作成

スクリプトアシスタントの次の画面では、スクリプトの名前を入力し、スクリプトのタイプを選択します。



名前フィールドにスクリプトの名前を入力した後、そのスクリプトのタイプを「バックアップ」、「同期」、「クローン」、「アーカイブ」の中から選択します。後でスクリプトの名前やタイプを変更することはできません。

次の画面へ進むには、右矢印をクリックします。



第6章 – バックアップスクリプトの使用

ソース

この画面では、スクリプトで使用するソースを 1 つまたは複数個選択します。

バックアップスクリプトまたはアーカイブスクリプトを作成する場合は、複数のソースを選択できます。

同期およびクローン作成の場合は、1 つのソースしか選択できません。



ソースを追加するには、ソースフォルダまたはボリュームを「ソース」フィールドにドラッグするか、または「追加」ボタンをクリックして、使用するフォルダまたはボリュームまで移動します。

第 6 章 – バックアップスクリプトの使用

ソースの 1 つがネットワークボリューム上にある場合は、そのソースを自動的にマウントするように選択することもできます。

この操作を行うには、そのソースをクリックして選択し、「ネットワークパラメータ...」をクリックします。次の画面が表示されます。



The image shows a dialog box titled "接続パラメータ" (Connection Parameters). It contains the following elements:

- A checkbox labeled "自動接続" (Automatic connection).
- Two radio buttons: "ゲストとして接続する" (Connect as guest) and "次の情報を使って接続する" (Connect using the following information). The second option is selected.
- Three text input fields labeled "ログイン:" (Login), "パスワード:" (Password), and "確認:" (Confirm).
- Two buttons at the bottom: "キャンセル" (Cancel) and "保存" (Save).

「自動接続」をクリックし、ゲストとして Mac を接続する場合は「ゲストとして接続する」を、ユーザ名とパスワードを持っている場合は「次の情報を使って接続する」をクリックします。「ログイン」フィールドにユーザ名を入力し、「パスワード」フィールドにパスワードを入力します。さらに「確認」フィールドにもう一度パスワードを入力し、「保存」をクリックします。

ネットワークボリュームに関する詳細情報を表示するには、「詳細...」の横にある三角形のアイコンをクリックします。この領域で、任意の情報を変更できます。

第 6 章 – バックアップスクリプトの使用



次の 3 つのプロトコルの中から選択できます。

- **AFP**: Apple File Protocol の略。Mac 間の AppleShare 接続に使用されます。
- **SMB**: Samba プロトコルの略。Windows コンピュータや一部の Linux または Unix コンピュータとの接続に使用されます。
- **Webdav**: Apple の iDisk によって使用されるプロトコルです。他の種類のネットワークで使用されることもあります。

必要に応じて、ネットワークボリュームの IP アドレスやホスト名、あるいはそのパスや名前を変更できます。

いずれかのソースを削除する場合は、そのソースをクリックして選択し、「削除...」をクリックします。ソースを削除するには「OK」をクリックし、削除操作を中止するには「キャンセル」をクリックします。

操作が完了したら、右矢印をクリックして次の画面へ進みます。



第6章 – バックアップスクリプトの使用

コピー先

この画面では、スクリプトのコピー先を選択します。



コピー先を追加するには、コピー先のフォルダまたはボリュームを「コピー先」フィールドにドラッグするか、または「選択」ボタンをクリックして、使用するフォルダまたはボリュームまで移動します。

第6章 – バックアップスクリプトの使用

コピー先がネットワークボリュームまたは iDisk 上にある場合には、そのコピー先を自動的にマウントするように選択することもできます。

そのためには、「ネットワークパラメータ…」をクリックします。次の画面が表示されます。



The image shows a dialog box titled "接続パラメータ" (Connection Parameters). It contains the following elements:

- A checkbox labeled "自動接続" (Automatic connection), which is currently unchecked.
- Two radio buttons for connection type:
 - "ゲストとして接続する" (Connect as guest), which is unselected.
 - "次の情報を使って接続する" (Connect using the following information), which is selected.
- Three text input fields labeled "ログイン:" (Login), "パスワード:" (Password), and "確認:" (Confirm).
- Two buttons at the bottom: "キャンセル" (Cancel) and "保存" (Save).

「自動接続」をクリックし、ゲストとして Mac を接続する場合は「ゲストとして接続する」を、ユーザ名とパスワードを持っている場合は「次の情報を使って接続する」をクリックします。「ログイン」フィールドにユーザ名を入力し、「パスワード」フィールドにパスワードを入力します。さらに「確認」フィールドにもう一度パスワードを入力し、「保存」をクリックします。

ネットワークボリュームに関する詳細情報を表示するには、「詳細…」の横にある三角形のアイコンをクリックします。この領域で、任意の情報を変更できます。

第 6 章 – バックアップスクリプトの使用



次の 3 つのプロトコルの中から選択できます。

- **AFP**: Apple File Protocol の略。Mac 間の AppleShare 接続に使用されます。
- **SMB**: Samba プロトコルの略。Windows コンピュータや一部の Linux または Unix コンピュータとの接続に使用されます。
- **Webdav**: Apple の iDisk によって使用されるプロトコルです。他の種類のネットワークで使用されることもあります。

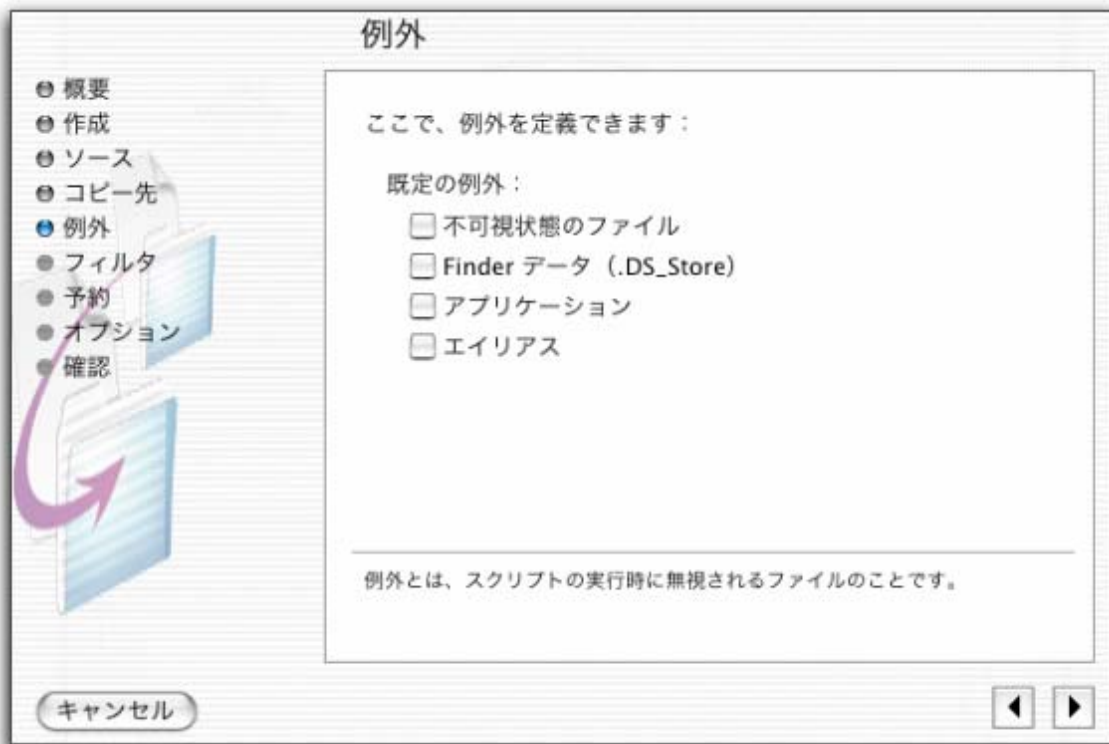
必要に応じて、ネットワークボリュームの IP アドレスやホスト名、あるいはそのパスや名前を変更できます。

操作が完了したら、右矢印をクリックして次の画面へ進みます。



例外

この画面では、例外、つまりスクリプトの実行時に Intego Personal Backup X が無視するファイルを定義します。



4 つの既定の例外があります。

- 不可視状態のファイル
- Finder データ(.DS_Store)
- アプリケーション
- エイリアス

第6章 – バックアップスクリプトの使用

これらのチェックボックスのいずれかをオンにすると、そのタイプのファイルがコピーされなくなります。

不可視状態のファイル

不可視状態のファイルは、Mac OS X または特定のアプリケーションによって使用されるファイルです。ユーザによってアクセスされることはありません。単に自分の個人用ファイルをバックアップまたは同期化する場合、これらのファイルをコピーする必要はありません。ただし、ボリュームのクローンを作成する場合は、これらのファイルもコピーする必要があります。不可視状態のファイルの中には、アクセスするために管理者としてのアクセス権を必要とするものがあります。そのため、不可視状態のファイルをコピーする場合は、コピー操作を開始する前に管理者用パスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。たとえスクリプトを自動的に実行するように予約している場合でも、パスワードを入力するときにはユーザがコンピュータの前にいる必要があります。ファイルのコピーおよびアクセス権について詳しくは、後述の「オプション」画面を参照してください。

Finder データ(.DS_Store)

Finder データは、Finder がコンピュータの各フォルダ内に書き込む特殊な不可視状態のファイルです。これらのファイルには、各フォルダのウインドウレイアウトが保存されています。バックアップまたは同期を行う際にウインドウレイアウトを維持したい場合は、このチェックボックスをオンにしないでください。

アプリケーション

このチェックボックスをオンにすると、ソースとして選択したフォルダまたはボリューム内にあるアプリケーションがすべてコピーされなくなります。アプリケーションは多くのディスク容量をとりがちです。また、たとえ失ったとしても再インストールすることが可能です。コピー先に十分な空き容量がない場合は、このチェックボックスをオンにすると便利です。



第6章 – バックアップスクリプトの使用

エイリアス

このチェックボックスをオンにすると、選択したソース内にあるエイリアスがすべてコピーされなくなります。

操作が完了したら、右矢印をクリックして次の画面へ進みます。

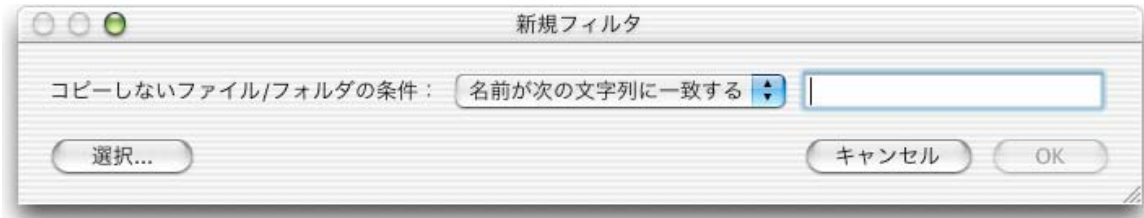
フィルタ

「フィルタ」画面では、バックアップ、同期、クローン作成、またはアーカイブから除外するファイルの詳細なフィルタを定義できます。



第6章 – バックアップスクリプトの使用

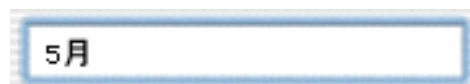
新規のフィルタを作成するには、「追加...」をクリックします。「新規フィルタ」ウインドウが表示されます。



ポップアップメニューで、いずれかのオプションを選択します。

- ✓ 名前が次の文字列に一致する
- 名前が次の文字列が含まれる
- 名前が次の文字列で始まる
- 名前が次の文字列で終わる
- 次のパス
- 次のサイズより大きい
- 次のサイズより小さい

次に、テキストフィールドに文字列を入力します。



たとえば、一連の月間報告書があり、各ファイルの名前が月の名前で始まっている場合、特定の月間報告書だけがコピーされないように指定できます(たとえば、これらのファイルがすでにアーカイブされている場合)。この場合、たとえば名前が「5月」で始まるファイルをコピーしないように指定できます。そうすると、これらのファイルはコピーされなくなります。



第 6 章 – バックアップスクリプトの使用

特定の拡張子が付いたファイルだけを除外することもできます。たとえば、Word 文書をコピーしないようにするには、**名前が .doc で終わる**ファイルを除くフィルタを作成します。

フィルタを作成し終わったら「OK」をクリックするか、またはキャンセルする場合は「キャンセル」をクリックします。フィルタは、必要な数だけいくつでも作成できます。

いずれかのフィルタを削除する場合は、そのフィルタをクリックして選択し、「削除...」をクリックします。フィルタを削除するには「OK」をクリックし、削除操作を中止するには「キャンセル」をクリックします。

フィルタに変更を加える場合は、そのフィルタを選択し、「編集」をクリックしてその定義を変更します。

操作が完了したら、右矢印をクリックして次の画面へ進みます。



予約

Intego Personal Backup X では、スクリプトの予約を設定できます。スクリプトは、指定した曜日の指定した時刻に、または指定した時間間隔で実行するように設定できます。Intego Personal Backup X は常にコンピュータを監視しているため、スクリプトの実行を予約しておけば、希望の時間にスクリプトが自動的に実行されます。予約スクリプトを実行するにはログインしなければならないことに注意してください。別のユーザがログインすると、スクリプトは実行されません。



第 6 章 – バックアップスクリプトの使用

スクリプトを予約するには、まず「追加...」をクリックして予約を追加します。新しい予約の行が追加されます。予約の左側にあるチェックボックスをオンにして、その予約をアクティブにします。最初のポップアップメニューから「日時指定」または「時間間隔」を選択します。

「時間間隔」を選択した場合は、テキストフィールドに数値を入力し、「分」、「時間」、または「日」を選択します。これで、指定した時間間隔でスクリプトが実行されるようになります。

時間間隔 時間

「日時指定」を選択した場合は、テキストフィールドに時刻(18:00 などの 24 時間形式)を入力し、2 つめのポップアップメニューから「毎日」または特定の曜日を選択します。

日時指定 金曜日

スクリプトの予約は、必要な数だけいくつでも設定できます。別の予約を追加するには、「追加...」をクリックし、上記の操作を行います。

「日時指定」と「時間間隔」を組み合わせることもできます。たとえば、2 時間ごとにデータをバックアップするとともに、1 日の最後(18:00)にもバックアップを実行するとします。この場合、2 つの予約は次のように設定します。

時間間隔 時間
 日時指定 金曜日

第 6 章 – バックアップスクリプトの使用

これで、バックアップが 2 時間ごとに実行されるとともに、毎日 18:00 時(午後 6 時)にもデータがバックアップされるようになります。

「スクリプト」引き出し内の予約スクリプトには、カレンダーのアイコンが付きます。

注記: Intego Personal Backup X でスクリプトの実行を予約した場合、これらのスクリプトはプログラムが開いていないときにのみ実行されます。プログラムが開いている場合、つまり手動でバックアップを行う場合やスクリプトを作成または編集している場合には、プログラムを終了するまで予約スクリプトは実行されません。

操作が完了したら、右矢印をクリックして次の画面へ進みます。



第6章 – バックアップスクリプトの使用

オプション

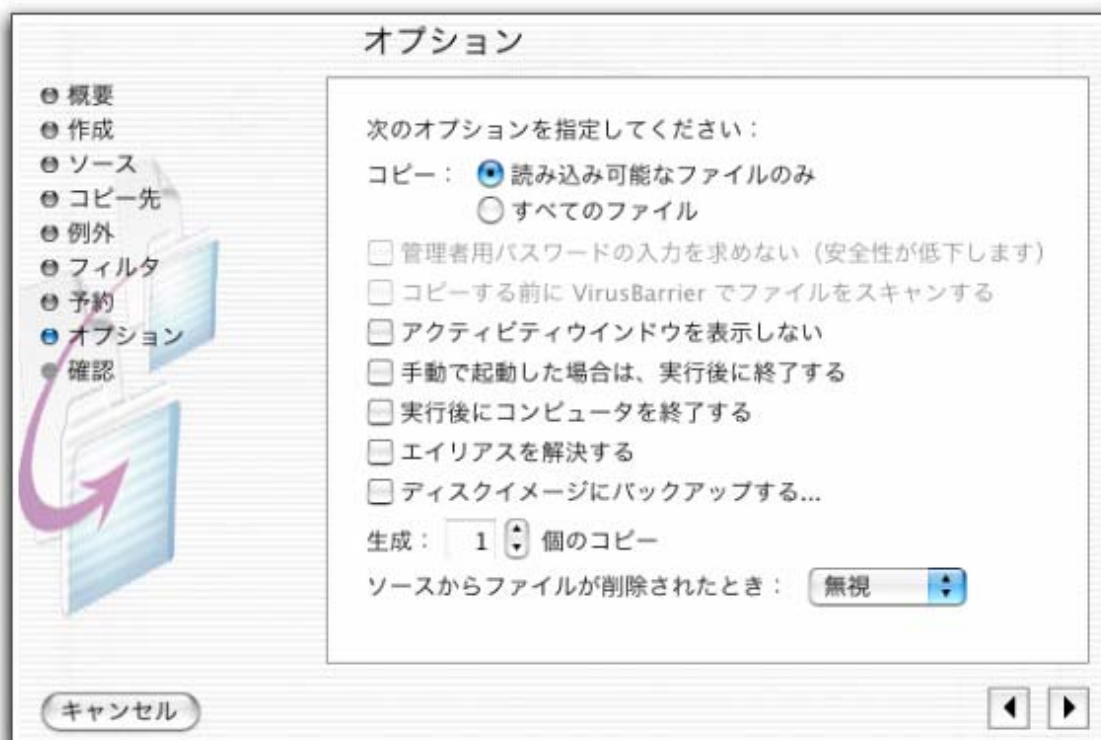
Intego Personal Backup X には、スクリプトの実行方法、コピーするファイルの種類、作成するコピーの数、削除されたファイルの処理方法などを制御するための一連のオプションがあります。

スクリプトのタイプがバックアップ、同期、クローン、アーカイブのいずれであるかによって、使用できるオプションも異なります。



バックアップのオプション

バックアップスクリプトでは、次のオプションを使用できます。



コピーオプション

「読み込み可能なファイルのみ」または「すべてのファイル」のいずれかを選択できます。

読み込み可能なファイルのみ

「読み込み可能なファイルのみ」を選択すると、自分がアクセス権を持っているファイルだけがコピーされます。つまり、一部のファイルはコピーされない可能性があります。これらは、

第 6 章 – バックアップスクリプトの使用

自分のユーザアカウントにアクセス権が与えられていないファイルです。たとえば、自分のコンピュータの「ユーザ」フォルダをコピーしたいとします。このフォルダには、自分の「ホーム」フォルダとこのコンピュータ内にアカウントを持つ他のユーザの「ホーム」フォルダが含まれています。この場合、コピーされるのは自分の「ホーム」フォルダだけです。

すべてのファイル

「すべてのファイル」を選択すると、選択したソース内のすべてのファイルがコピーされます（「例外」画面で除外したファイルはコピーされません）。ただし、自分のファイル以外の特定のファイルにアクセスできるように、管理者用パスワードの入力を求められる場合があります。

管理者用パスワードの入力を求めない

このオプションは、上記の「すべてのファイル」を選択した場合にのみ、スクリプトに対して使用できます。このチェックボックスをオンにすると、その時点で管理者用パスワードの入力を求められます。これにより、バックアップスクリプトを実行するたびにパスワードを入力する必要がなくなります。

コピーする前に VirusBarrier でファイルをスキャンする

お使いのコンピュータに Intego VirusBarrier X がインストールされている場合は、このオプションを使用できます。このチェックボックスをオンにすると、コピー操作を開始する前に Intego VirusBarrier X を使ってファイルのチェックが行われます。

アクティビティウインドウを表示しない

このチェックボックスをオンにすると、アクティビティウインドウが表示されなくなります。つまり、スクリプトの進行状況を確認することはできません。



第 6 章 – バックアップスクリプトの使用

手動で起動した場合は、実行後に終了する

このチェックボックスをオンにすると、スクリプトを手動で実行した場合に、そのスクリプトの実行終了とともに Intego Personal Backup X が終了します。予約済みの自動スクリプトには影響しません。

実行後にコンピュータを終了する

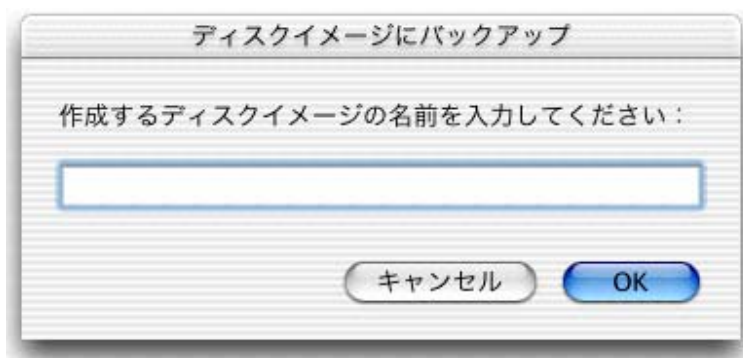
このチェックボックスをオンにすると、スクリプトの実行後にお使いの Mac が終了します。

エイリアスを解決する

このチェックボックスをオンにすると、ソース内のエイリアスが参照され、そのオリジナルが検索されます。オリジナルがソース内に存在しない場合は、オリジナルを検索し、それらをコピーしてることにより、エイリアスの代わりにオリジナルをバックアップします。

ディスクイメージにバックアップする...

このチェックボックスをオンにすると、ソースがディスクイメージ内にバックアップされます。このディスクイメージはコピー先に保存されます。このチェックボックスをオンにすると、ディスクイメージの名前を入力するためのダイアログが表示されます。



第 6 章 – バックアップスクリプトの使用

このディスクイメージは、スクリプトを最初に実行したとき、コピー先に自動的に作成されます。これはダイナミックディスクイメージで、最初はソースに必要なサイズだけを使って作成されます。次にこのスクリプトを実行すると、このディスクイメージがマウントされ、変更されたファイルが書き込まれます。このとき、必要に応じてディスクイメージのサイズが変わります。

生成: X 個のコピー

Intego Personal Backup X では、複数の異なるバージョンのバックアップを保存できます。たとえば、デイリーバックアップスクリプトを実行する場合に、3 個のコピーを生成するように指定すると、3 個の完全なバックアップが作成されます。各バックアップは、それぞれ `Script_Name_X` という名前のフォルダ内に保存されます。ここで、`Script_Name` はスクリプトの名前であり、`X` はフォルダの番号を表します。つまり、「デイリーバックアップ」という名前のスクリプトを実行した場合は、「デイリーバックアップ 1」、「デイリーバックアップ 2」、および「デイリーバックアップ 3」という名前のフォルダが作成されます。

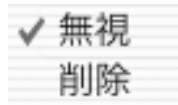
指定した数のコピーが生成されている場合、Intego Personal Backup は最も古いコピーを更新します。つまり、3 個のバックアップが作成された後、最初に更新されるのは「デイリーバックアップ 1」であり、その後「デイリーバックアップ 2」、「デイリーバックアップ 3」の順に更新されます。ファイルを回復する場合にどれが最も新しいバックアップであるかを判断するには、Finder で各フォルダを選択し、「ファイル」メニューの「情報を見る」を選択します（または `Command+I` キーを押します）。最新のバックアップは、変更日の最も新しいフォルダに入っています。

ソースからファイルが削除されたとき:

このオプションには 2 つの選択肢があります。ポップアップメニューで、次のいずれかの選択肢を選択してください。



第6章 – バックアップスクリプトの使用



無視

「無視」を選択すると、前のバックアップには存在するがソースからは削除されているファイルまたはフォルダがすべて無視されます。つまり、これらのファイルはバックアップ内に残されます。

削除

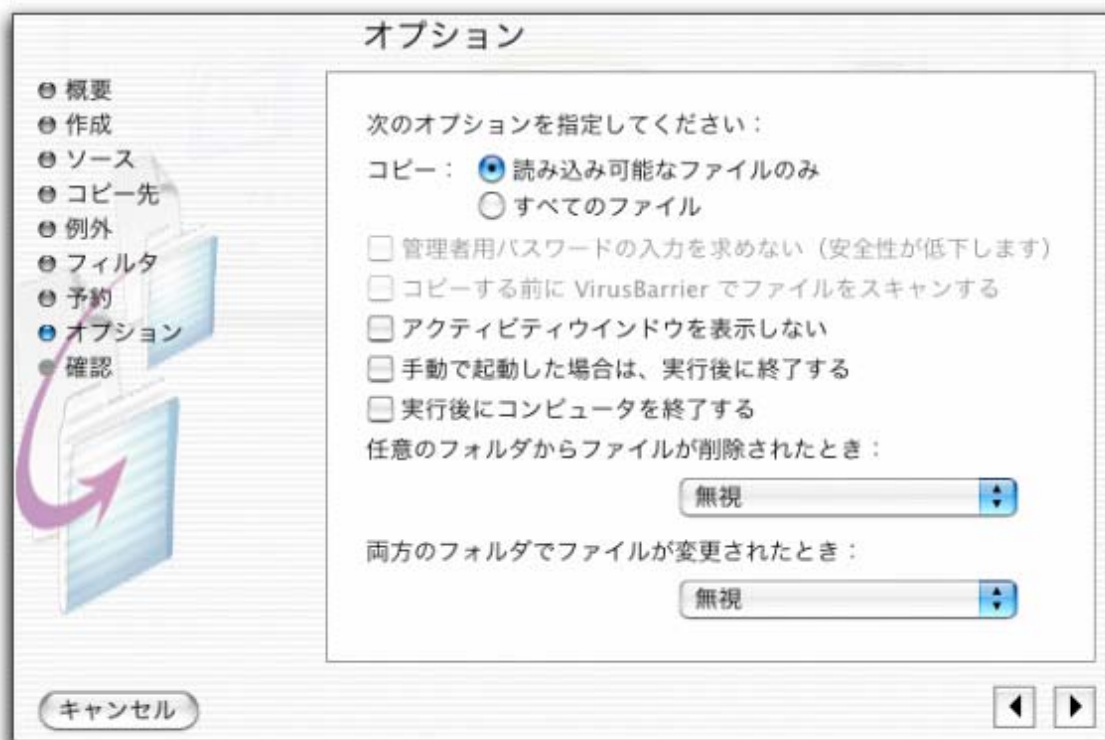
「削除」を選択すると、前のバックアップには存在するがソースからは削除されているファイルまたはフォルダがすべて削除されます。これにより、バックアップの内容がソースの内容とまったく同じになります。

操作が完了したら、右矢印をクリックして次の画面へ進みます。



同期のオプション

同期スクリプトでは、次のオプションを使用できます。



コピーオプション

「読み込み可能なファイルのみ」または「すべてのファイル」のいずれかを選択できます。

読み込み可能なファイルのみ

「読み込み可能なファイルのみ」を選択すると、自分がアクセス権を持っているファイルだけがコピーされます。つまり、一部のファイルはコピーされない可能性があります。これらは、

第 6 章 – バックアップスクリプトの使用

自分のユーザアカウントにアクセス権が与えられていないファイルです。たとえば、自分のコンピュータの「ユーザ」フォルダをコピーしたいとします。このフォルダには、自分の「ホーム」フォルダとこのコンピュータ内にアカウントを持つ他のユーザの「ホーム」フォルダが含まれています。この場合、コピーされるのは自分の「ホーム」フォルダだけです。

すべてのファイル

「すべてのファイル」を選択すると、選択したソース内のすべてのファイルがコピーされます（「例外」画面で除外したファイルはコピーされません）。ただし、自分のファイル以外の特定のファイルにアクセスできるように、管理者用パスワードの入力を求められる場合があります。

管理者用パスワードの入力を求めない

このオプションは、上記の「すべてのファイル」を選択した場合にのみ、スクリプトに対して使用できます。このチェックボックスをオンにすると、その時点で管理者用パスワードの入力を求められます。これにより、バックアップスクリプトを実行するたびにパスワードを入力する必要がなくなります。

コピーする前に VirusBarrier でファイルをスキャンする

お使いのコンピュータに Intego VirusBarrier X がインストールされている場合は、このオプションを使用できます。このチェックボックスをオンにすると、コピー操作を開始する前に Intego VirusBarrier X を使ってファイルのチェックが行われます。

アクティビティウインドウを表示しない

このチェックボックスをオンにすると、アクティビティウインドウが表示されなくなります。つまり、スクリプトの進行状況を確認することはできません。



第 6 章 – バックアップスクリプトの使用

手動で起動した場合は、実行後に終了する

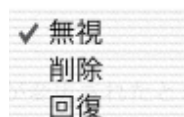
このチェックボックスをオンにすると、スクリプトを手動で実行した場合に、そのスクリプトの実行後に Intego Personal Backup X が終了します。予約済みの自動スクリプトには影響しません。

実行後にコンピュータを終了する

このチェックボックスをオンにすると、スクリプトの実行後にお使いの Mac が終了します。

任意のフォルダからファイルが削除されたとき:

このオプションには 3 つの選択肢があります。ポップアップメニューで、次のいずれかの選択肢を選択してください。



無視

「無視」を選択すると、一方のフォルダからは削除されているが他方のフォルダには存在するファイルまたはフォルダがすべて無視されます。それらのファイルまたはフォルダは、そのまま同じ場所に残ります。同期後、2 つのフォルダの内容は異なります。つまり、一方のフォルダには、他方のフォルダにはないファイルまたはフォルダのコピーが含まれることとなります。

削除

「削除」を選択すると、一方のフォルダからは削除されているが他方のフォルダには存在するファイルまたはフォルダがすべて削除されます。その結果、両方のフォルダの内容はまったく同じになります。

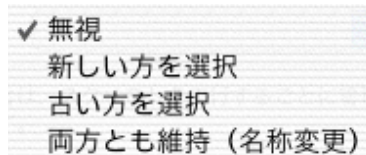
第 6 章 – バックアップスクリプトの使用

回復

「回復」を選択すると、一方のフォルダからは削除されているが他方のフォルダには存在するファイルまたはフォルダが、削除されている方のフォルダにコピーされます。ファイルが含まれているフォルダには関係なく、どのファイルも削除されることはありません。同期後、両方のフォルダの内容はまったく同じになります。

両方のフォルダでファイルが変更されたとき:

このオプションには 4 つの選択肢があります。ポップアップメニューで、次のいずれかの選択肢を選択してください。



無視

「無視」を選択すると、両方のフォルダに存在する変更済みのファイルまたはフォルダはすべて無視されます。それらのファイルまたはフォルダは、そのまま同じ場所に残ります。同期後、2 つのフォルダの内容は異なります。つまり、各フォルダには、それぞれ異なるファイルが存在することになります。

新しい方を選択

「新しい方を選択」を選択すると、まず両方のファイルの変更日が比較され、新しい方のファイルがもう一方のフォルダにコピーされます。その結果、両方のファイルに、すべてのファイルの新しいバージョンが含まれることになります。

第 6 章 – バックアップスクリプトの使用

古い方を選択

「古い方を選択」を選択すると、まず両方のファイルの変更日が比較され、古い方のファイルがもう一方のフォルダにコピーされます。その結果、変更されたファイルが見つかった場合には、両方のフォルダにそれらの古いバージョンが含まれることになります。

両方とも維持(名称変更)

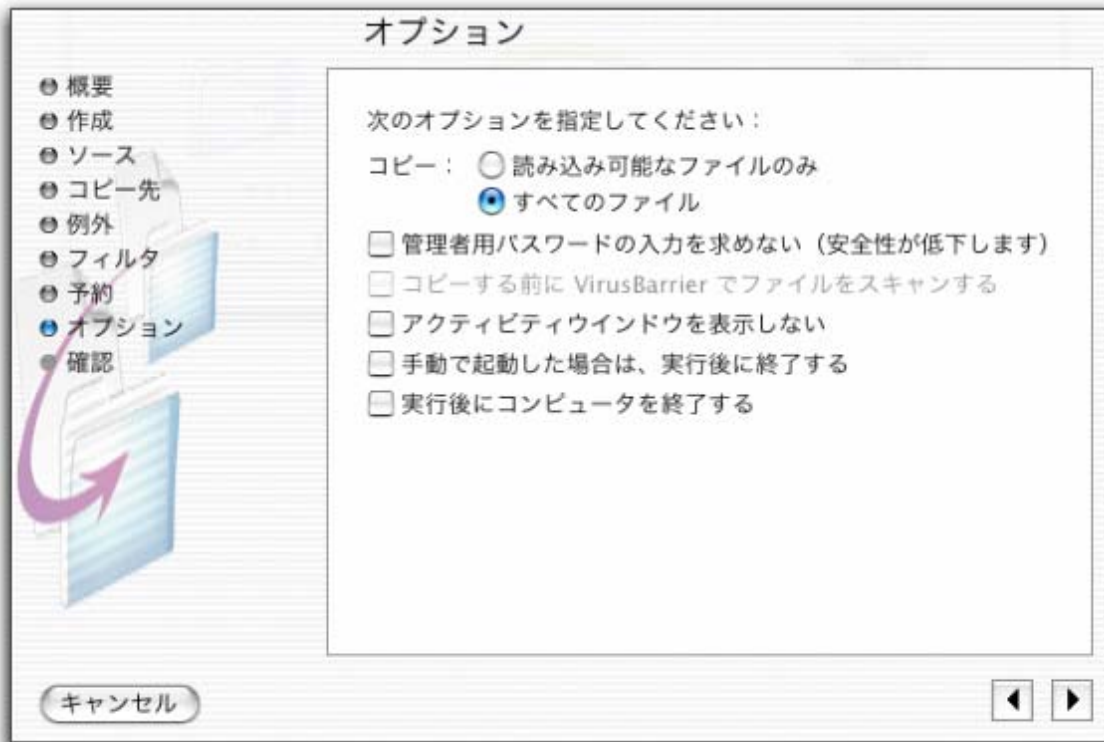
「両方とも維持(名称変更)」を選択すると、両方のバージョンのファイルまたはフォルダが維持され、それらの名前が VERS1 および VERS2 の付いた名前に変更されます。つまり、各フォルダに両方のバージョンがコピーされます。どのファイルも削除されないため、これが最も安全な選択肢だと言えます。

操作が完了したら、右矢印をクリックして次の画面へ進みます。



クローンのオプション

クローンスクリプトでは、次のオプションを使用できます。



コピーオプション

「読み込み可能なファイルのみ」または「すべてのファイル」のいずれかを選択できます。

読み込み可能なファイルのみ

「読み込み可能なファイルのみ」を選択すると、自分がアクセス権を持っているファイルだけがコピーされます。つまり、一部のファイルはコピーされない可能性があります。これらは、

第 6 章 – バックアップスクリプトの使用

自分のユーザアカウントにアクセス権が与えられていないファイルです。たとえば、自分のコンピュータの「ユーザ」フォルダをコピーしたいとします。このフォルダには、自分の「ホーム」フォルダとこのコンピュータ内にアカウントを持つ他のユーザの「ホーム」フォルダが含まれています。この場合、コピーされるのは自分の「ホーム」フォルダだけです。

すべてのファイル

「すべてのファイル」を選択すると、選択したソース内のすべてのファイルがコピーされます（「例外」画面で除外したファイルはコピーされません）。ただし、自分のファイル以外の特定のファイルにアクセスできるように、管理者用パスワードの入力を求められる場合があります。

注記：ボリュームのクローンを作成してそれを別のボリュームにコピーすると、そのボリューム内のすべてのファイルがコピーされます。そのため、クローン作成は Mac OS X の起動ボリュームをバックアップする最も便利な方法だと言えます。このボリュームを起動可能にするためには、「すべてのファイル」を選択し、かつ管理者用パスワードを持っている必要があります。

管理者用パスワードの入力を求めない

このオプションは、上記の「すべてのファイル」を選択した場合にのみ、スクリプトに対して使用できます。このチェックボックスをオンにすると、その時点で管理者用パスワードの入力を求められます。これにより、バックアップスクリプトを実行するたびにパスワードを入力する必要がなくなります。



第 6 章 – バックアップスクリプトの使用

コピーする前に VirusBarrier でファイルをスキャンする

お使いのコンピュータに Intego VirusBarrier X がインストールされている場合は、このオプションを使用できます。このチェックボックスをオンにすると、コピー操作を開始する前に Intego VirusBarrier X を使ってファイルのチェックが行われます。

アクティビティウインドウを表示しない

このチェックボックスをオンにすると、アクティビティウインドウが表示されなくなります。つまり、スクリプトの進行状況を確認することはできません。

手動で起動した場合は、実行後に終了する

このチェックボックスをオンにすると、スクリプトを手動で実行した場合に、そのスクリプトの実行後に Intego Personal Backup X が終了します。予約済みの自動スクリプトには影響しません。

実行後にコンピュータを終了する

このチェックボックスをオンにすると、スクリプトの実行後にお使いの Mac が終了します。

操作が完了したら、右矢印をクリックして次の画面へ進みます。



アーカイブのオプション

アーカイブスクリプトでは、次のオプションを使用できます。



コピーオプション

「読み込み可能なファイルのみ」または「すべてのファイル」のいずれかを選択できます。

読み込み可能なファイルのみ

「読み込み可能なファイルのみ」を選択すると、自分がアクセス権を持っているファイルだけがコピーされます。つまり、一部のファイルはコピーされない可能性があります。これらは、

第 6 章 – バックアップスクリプトの使用

自分のユーザアカウントにアクセス権が与えられていないファイルです。たとえば、自分のコンピュータの「ユーザ」フォルダをコピーしたいとします。このフォルダには、自分の「ホーム」フォルダとこのコンピュータ内にアカウントを持つ他のユーザの「ホーム」フォルダが含まれています。この場合、コピーされるのは自分の「ホーム」フォルダだけです。

すべてのファイル

「すべてのファイル」を選択すると、選択したソース内のすべてのファイルがコピーされます（「例外」画面で除外したファイルはコピーされません）。ただし、自分のファイル以外の特定のファイルにアクセスできるように、管理者用パスワードの入力を求められる場合があります。

管理者用パスワードの入力を求めない

このオプションは、上記の「すべてのファイル」を選択した場合にのみ、スクリプトに対して使用できます。このチェックボックスをオンにすると、その時点で管理者用パスワードの入力を求められます。これにより、バックアップスクリプトを実行するたびにパスワードを入力する必要がなくなります。

コピーする前に VirusBarrier でファイルをスキャンする

お使いのコンピュータに Intego VirusBarrier X がインストールされている場合は、このオプションを使用できます。このチェックボックスをオンにすると、コピー操作を開始する前に Intego VirusBarrier X を使ってファイルのチェックが行われます。

アクティビティウインドウを表示しない

このチェックボックスをオンにすると、アクティビティウインドウが表示されなくなります。つまり、スクリプトの進行状況を確認することはできません。



第 6 章 – バックアップスクリプトの使用

手動で起動した場合は、実行後に終了する

このチェックボックスをオンにすると、スクリプトを手動で実行した場合に、そのスクリプトの実行後に Intego Personal Backup X が終了します。予約済みの自動スクリプトには影響しません。

実行後にコンピュータを終了する

このチェックボックスをオンにすると、スクリプトの実行後にお使いの Mac が終了します。

エイリアスを解決する

このチェックボックスをオンにすると、ソース内のエイリアスが参照され、そのオリジナルが検索されます。オリジナルがソース内に存在しない場合は、オリジナルを検索し、それらをコピーしてることにより、エイリアスの代わりにオリジナルをバックアップします。

生成: X 個のコピー

Intego Personal Backup X では、複数の異なるバージョンのバックアップを保存できます。たとえば、デイリーアーカイブスクリプトを実行する場合に、3 個のコピーを生成するように指定すると、3 個の完全なバックアップが作成されます。各バックアップは、それぞれ Script_Name_X という名前のディスクイメージファイル内に保存されます。ここで、Script_Name はスクリプトの名前であり、X はフォルダの番号を表します(ディスクイメージファイルに別の名前を指定しなかった場合)。つまり、「デイリーバックアップ」という名前のスクリプトを実行した場合は、「デイリーバックアップ 1」、「デイリーバックアップ 2」、および「デイリーバックアップ 3」という名前のディスクイメージファイルが作成されます。

指定した数のコピーがすでに生成されている場合、Intego Personal Backup は最も古いコピーを置き換えます。つまり、3 個のアーカイブが作成された後、最初に置き換えられるのは「デイリーバックアップ 1」であり、その後「デイリーバックアップ 2」、「デイリーバックアップ 3」の順に置き換え



第6章 – バックアップスクリプトの使用

られます。ファイルを回復する場合にどれが最も新しいアーカイブであるかを判断するには、Finder で各フォルダを選択し、「ファイル」メニューの「情報を見る」を選択します（または Command+I キーを押します）。最新のアーカイブは、変更日の最も新しいディスクイメージファイルに入っています。

圧縮ディスクイメージの名前

アーカイブが入っている圧縮形式のディスクイメージの名前を入力します。.dmg というファイル拡張子は残しておいた方が便利です。

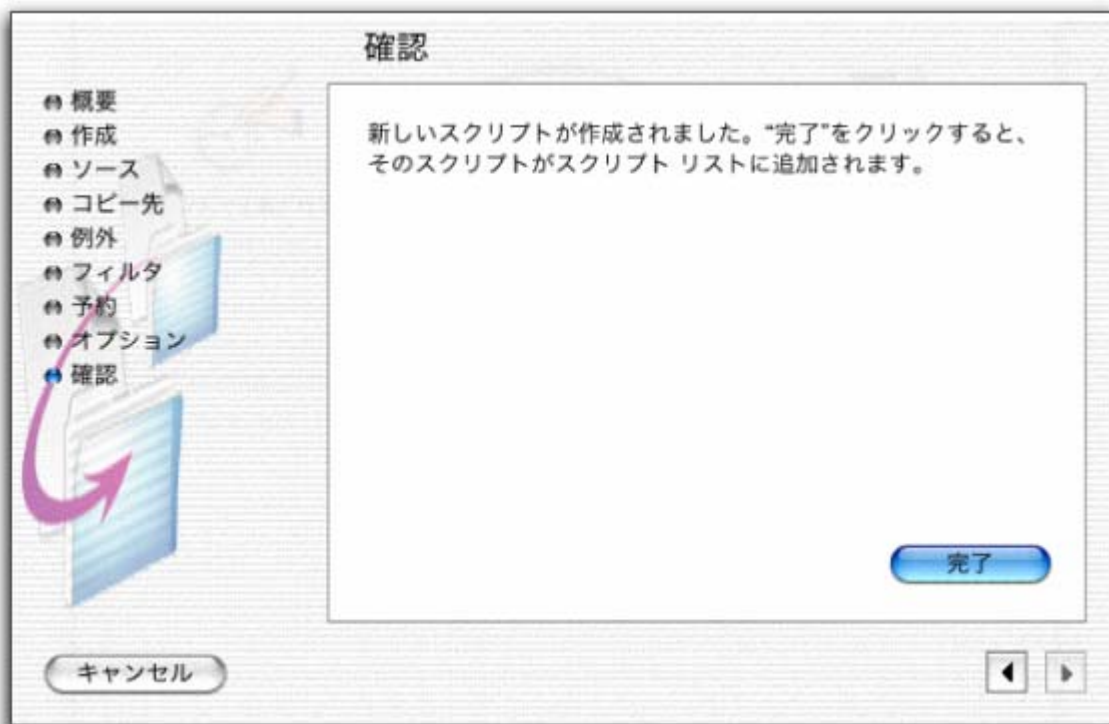
操作が完了したら、右矢印をクリックして次の画面へ進みます。



第6章 – バックアップスクリプトの使用

確認

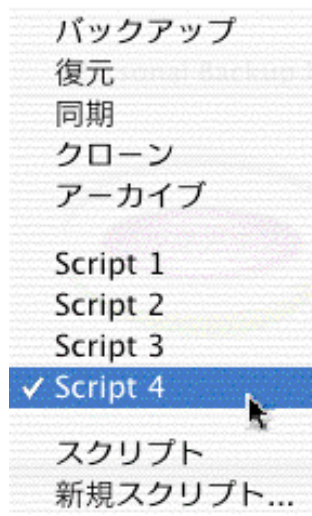
スクリプトのオプションをすべて選択し終わったら、この画面でそれらのオプションを確認します。変更を加える場合は、左矢印ボタンをクリックして前の画面に戻ります。スクリプトの要素は、名前とタイプを除き、どれでも変更することが可能です。



「完了」をクリックしてスクリプトを保存します。

スクリプトを手動で実行する

任意のスクリプトを手動で実行するには、「Personal Backup X」ウインドウのポップアップメニューからスクリプトを選択します。



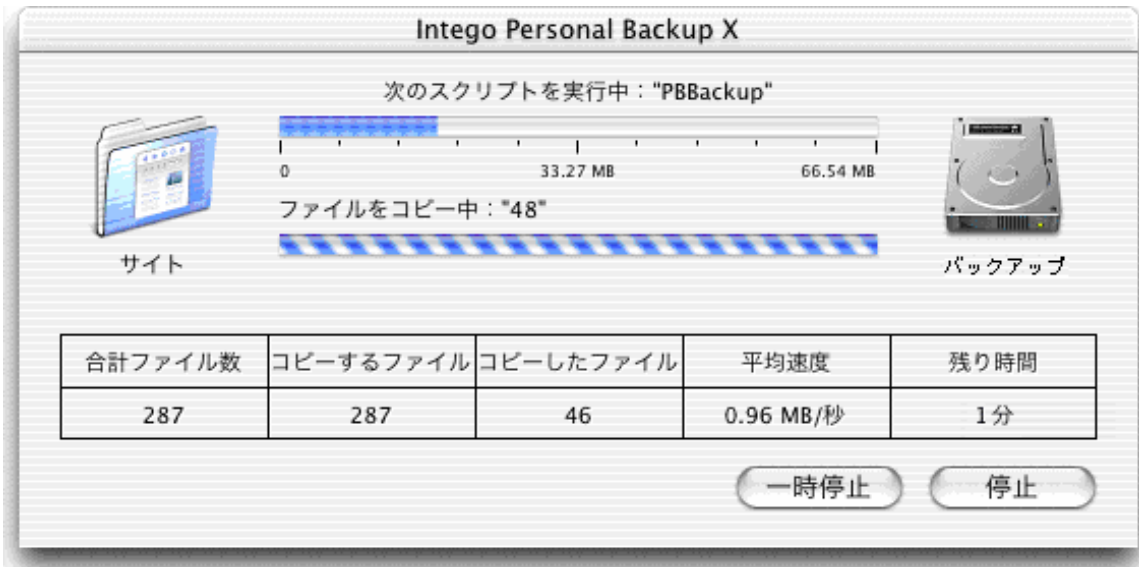
次に、選択したスクリプトのタイプに応じて「バックアップ」、「復元」、「クローン」、または「アーカイブ」ボタンをクリックします。



バックアップ操作が開始されると、メインウインドウにバックアップの進行状況バーが表示されます。。

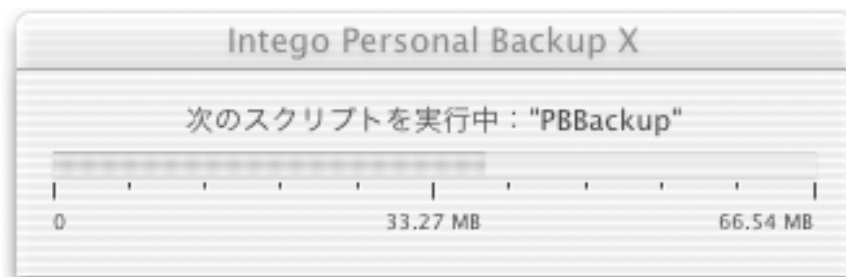


第6章 – バックアップスクリプトの使用



この進行状況バーは、バックアップの進行状況を示すものです。

デスクトップをクリックするか、別のアプリケーションをアクティブ (Dock でそのアプリケーションを選択するか、またはそのウィンドウをクリック) にすると、Intego Personal Backup X は非アクティブ (バックグラウンドで実行) になり、アクティビティウィンドウが縮小します。ただし、バックアップ操作は継続して実行されます。



第 6 章 – バックアップスクリプトの使用

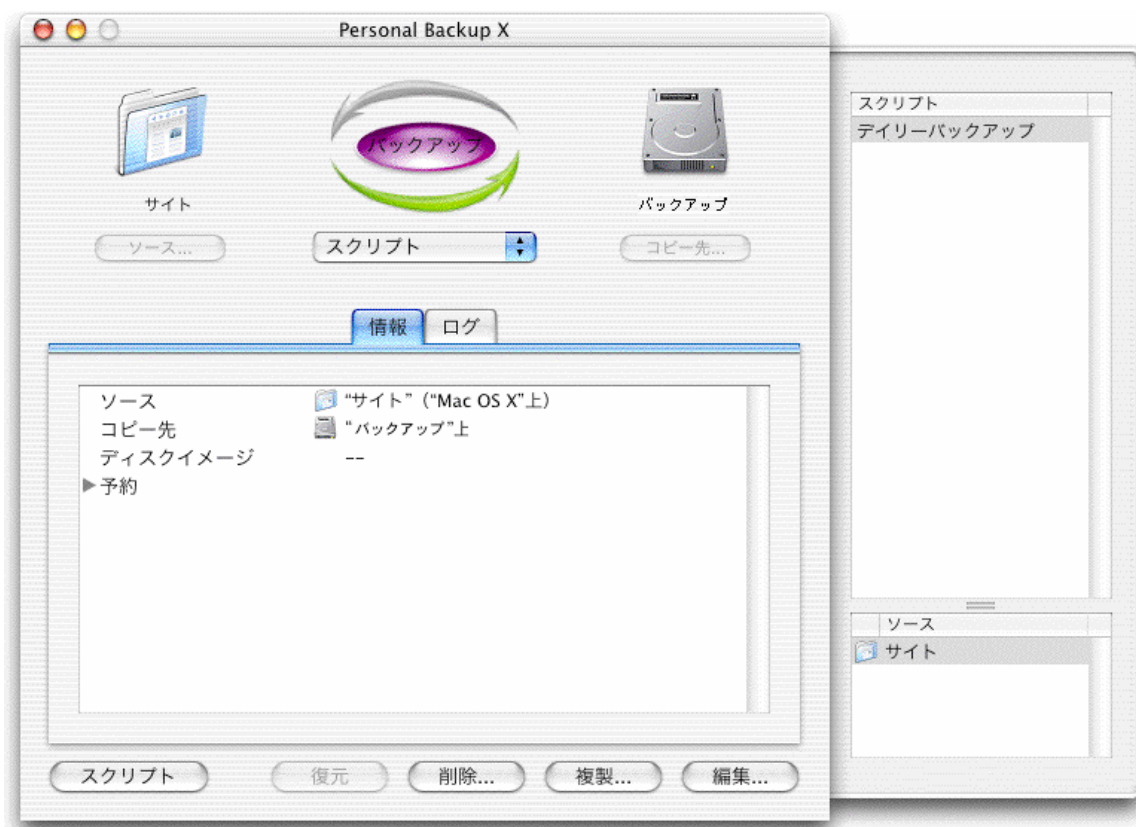
縮小ウインドウをクリックすると、ウインドウが拡大され、Intego Personal Backup X がアクティブになります。Dock 内のアイコンをクリックしても、Intego Personal Backup X がアクティブになります。バックアップ操作はいつでも停止できます。バックアップ操作を停止するには「停止」ボタンを、一時停止するには「一時停止」ボタンをクリックします。バックアップを一時停止すると、このボタンは「再開」ボタンに変わります。バックアップ操作を続行するには、この「再開」ボタンをクリックします。



スクリプトを編集する

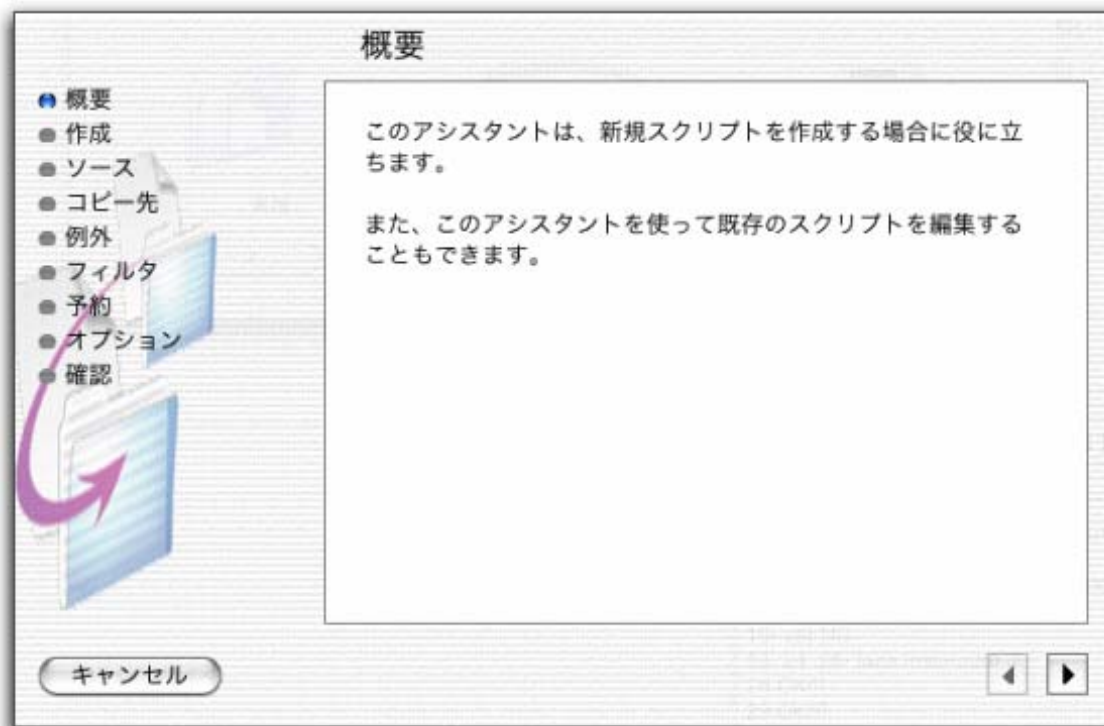
スクリプトを作成した後にその要素のいくつかを変更したい場合には、スクリプトを編集することができます。ただし、スクリプトの名前とタイプ(バックアップ、同期、クローン、またはアーカイブ)を変更することはできません。

スクリプトを編集するには、まず「Intego Personal Backup X」ウィンドウのポップアップメニューで「スクリプト」を選択します。すると、詳細設定モード用のウィンドウが開き、定義済みのすべてのスクリプトを一覧した引き出しが表示されます。



第 6 章 – バックアップスクリプトの使用

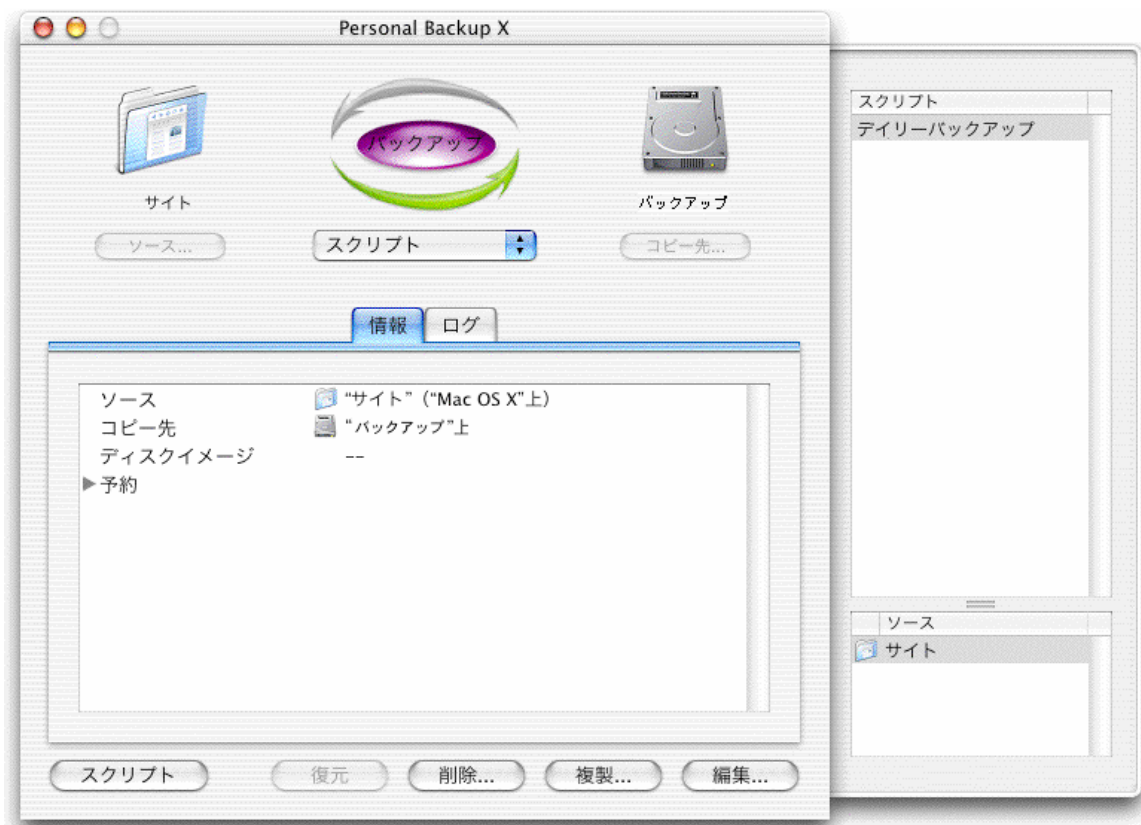
引出しの上で、スクリプトの 1 つをクリックします。すると、そのソースが引き出しの下部に表示されます。次に「編集...」ボタンをクリックして、スクリプトアシスタントを開きます。このアシスタントは、スクリプトを作成したときに使用したのと同じものです。



スクリプトの任意の要素（名前とタイプを除く）を変更するには、右矢印ボタンをクリックして各画面を表示していくか、または目的の画面の名前を直接クリックします。たとえば、予約を変更する場合は、画面の左側のリストで「予約」をクリックします。すると、「予約」画面が開きます。必要な変更を加え、「確認」画面が表示されるまで右矢印ボタンをクリックした後、「完了」をクリックします。これで、スクリプトが更新されます。

スクリプト情報

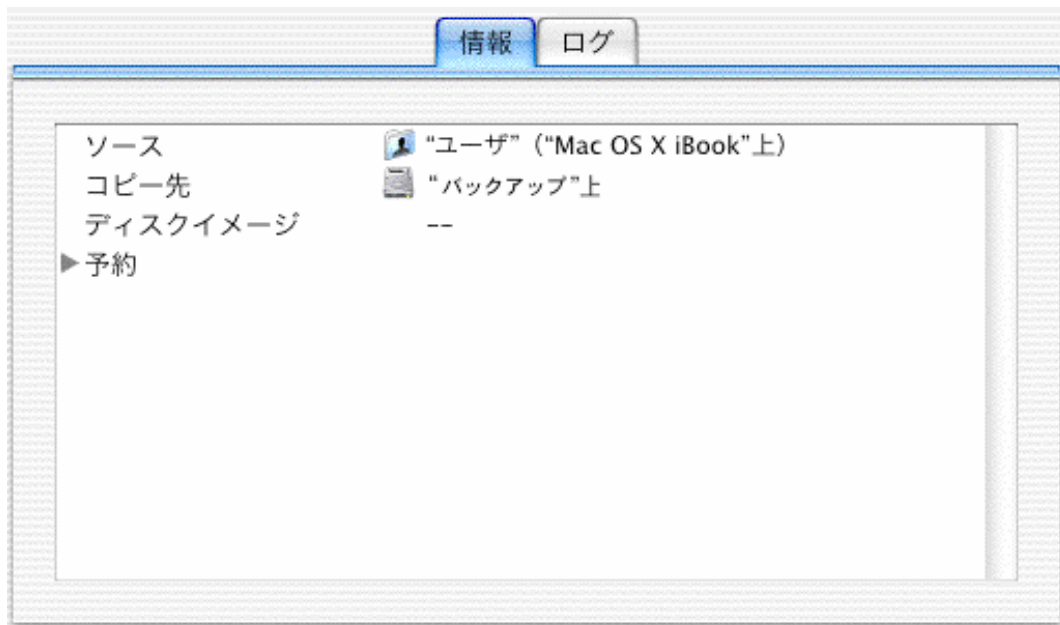
「Personal Backup X」ウインドウのポップアップで「スクリプト」を選択すると、詳細設定モード用のウインドウが表示されます。



このウインドウの「情報」タブには、スクリプトに関する情報が含まれています。この情報を表示するには、「スクリプト」引き出しでスクリプトの 1 つをクリックし、「情報」タブをクリックします。

第6章 – バックアップスクリプトの使用

このタブには、スクリプトのソースおよびコピー先と、予約が定義されている場合にはその予約が表示されます。



予約の内容を見るには、「予約」の横の三角形をクリックします。

ソース	"ユーザ"
コピー先	"バックアップ"上
ディスクイメージ	--
▼ 予約	
前回の実行	10/05, 18:36
次回の実行	18/05, 18:36

前回および次回の実行日時が表示されます。



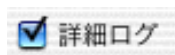
スクリプトログ

Intego Personal Backup X には、スクリプトを実行するたびにそのログを記録する機能があります。このログの内容は、「ログ」タブに表示されます。スクリプトのログを表示するには、「スクリプト」引き出しでスクリプトの 1 つをクリックし、「ログ」タブをクリックします。

Intego Personal Backup X のログには、簡易ログと詳細ログの 2 種類があります。簡易ログには、スクリプトの実行日時とソースおよびコピー先が表示され、さらにスクリプトが正常に実行されたかどうかが表示されます。スクリプトの実行中に問題が発生した場合は、その内容も示されます。ログは、自動スクリプトが正常に実行されたかどうかを調べるのに特に便利です。

詳細ログには、簡易ログに示される基本情報のほか、(スクリプトのタイプに応じて)バックアップまたはコピーされたすべてのファイルのリストが表示されます。

詳細ログが記録されるようにするには、「スクリプト」引き出しでスクリプトを選択し、「ログ」タブで「詳細ログ」チェックボックスをオンにします。



詳細ログのサイズは非常に大きくなることもあり、それが原因でプログラムの実行速度が低下する場合があります。「ログ」環境設定では、任意のログファイルが指定サイズより大きくなったときに警告を表示するように設定できます。そうすれば、その時点でそれらのログファイルを削除したり、テキスト形式で保存したりできます。詳しくは、第 7 章「Intego Personal Backup X の環境設定」を参照してください。

第6章 – バックアップスクリプトの使用

ログを保存する

表示されているログの内容を保存するには、「保存...」ボタンをクリックします。



ウインドウの上部にシートが表示されるので、そこでファイルの名前と場所を指定します。ログはテキストファイルとして保存されるため、任意のワープロアプリケーションまたはテキストエディタで開くことができます。



第 6 章 – バックアップスクリプトの使用

ログを削除する

表示されているログを削除するには、「パーズ...」ボタンをクリックします。



削除操作を確認するための警告メッセージが表示されます。ログをパーズする場合は「OK」をクリックし、操作をキャンセルする場合は「キャンセル」をクリックします。



「スクリプト」引き出しの表示と非表示を切り替える

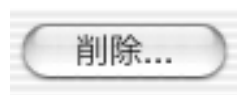
「スクリプト」引き出しの表示と非表示を切り替えるには、詳細設定モード用のウインドウの下部にある「スクリプト」ボタンをクリックします。



「スクリプト」引き出しが表示されている場合は、非表示になります。「スクリプト」引き出しが表示されていない場合は、ウインドウの右側または左側（どちらか広い方）に引き出しが表示されます。

スクリプトを削除する

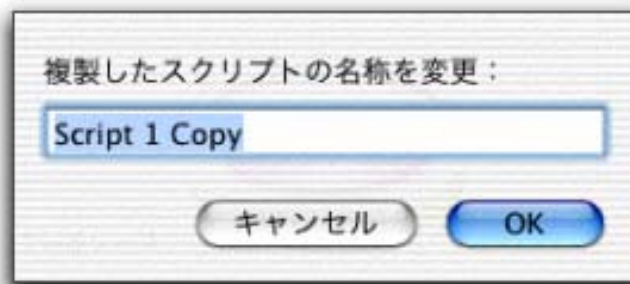
スクリプトを削除するには、引き出しの上部でスクリプトの 1 つをクリックして選択し、「削除...」をクリックします。そのスクリプトを削除する場合は「OK」をクリックし、削除しない場合は「キャンセル」をクリックします。スクリプトを削除した場合は、そのログも一緒に削除されます。



スクリプトを複製する

既存のスクリプトに類似したスクリプトを作成する場合は、スクリプトを複製し、それに新しい名前を付けます。そうすれば、すべてのオプションを設定し直さなくても済みます。ただし、スクリプトのタイプ(バックアップ、同期、クローン、またはアーカイブ)を変更することはできません。

スクリプトを複製するには、引き出しの上部でスクリプトの 1 つをクリックして選択し、「複製...」をクリックします。ウインドウの上部にシートが表示されるので、そこで複製スクリプトの名前を指定します。



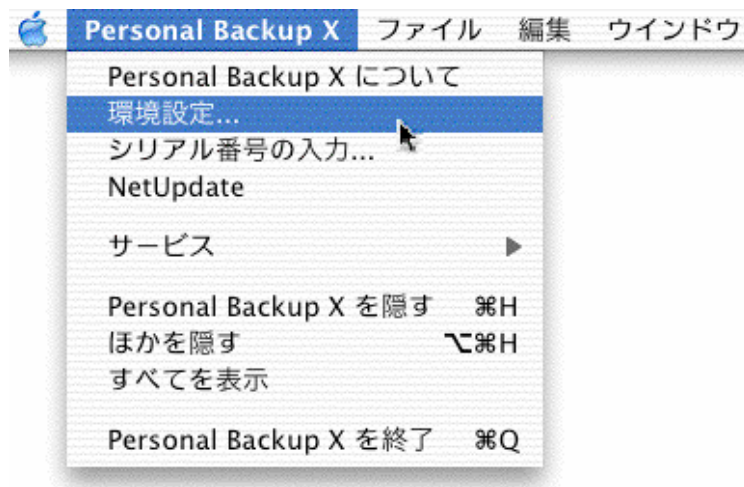
新しい名前を入力して「OK」をクリックするか、複製をキャンセルする場合は「キャンセル」をクリックします。

7 - Intego Personal Backup X の環境設定



Intego Personal Backup X の環境設定を行う

Intego Personal Backup X には、環境設定を行うためのオプションがいくつかあります。Intego Personal Backup X の環境設定ウインドウを開くには、「Personal Backup X」メニューの「環境設定...」を選択します。



Intego Personal Backup X の環境設定には、「インタフェース」、「リマインダ」、および「ログ」の 3 つの領域があります。

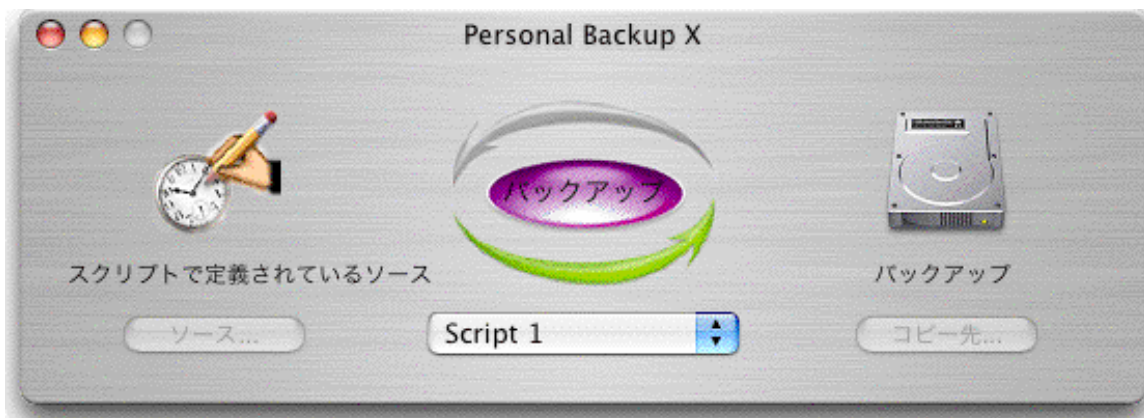


「インタフェース」環境設定

Intego Personal Backup X には、「アクア」または「ブラッシュトメタル」の 2 種類のインタフェースオプションがあります。デフォルトでは、「アクア」インタフェースが使用されています。「ブラッシュトメタル」インタフェースを使用する場合は、「ブラッシュトメタル」ラジオボタンをオンにします。



次の図は、「ブラッシュトメタル」インターフェイスの例です。



リマインダを設定する

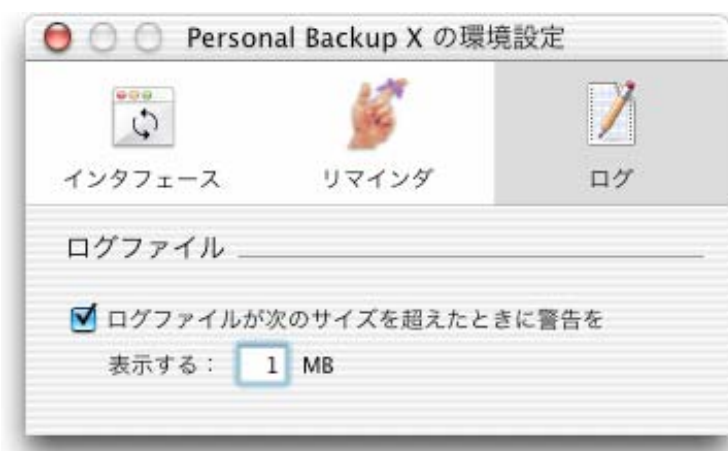
お持ちのデータを定期的にバックアップすることは大切なことです。そのため、Intego Personal Backup X を使って、自動的にスクリプトを実行するように予約を設定しているユーザもいることでしょう。しかし、場合によっては自動スクリプト機能を使用したくない場合や、ファイルをバックアップし忘れる場合もあります。リマインダを設定するには、リマインダのチェックボックスをオンにし、テキストフィールドにその日数を指定します。



「ログ」環境設定

Intego Personal Backup X では、詳細ログ機能を使用して、そのすべての操作を記録することができます。しかし、これらの詳細ログのサイズが大きくなりすぎると、プログラムの処理速度が低下することがあります。「ログ」環境設定では、任意のログファイルが指定サイズより大きくなったときに警告を表示するように設定できます。そうすれば、その時点でそれらのログファイルを削除したり、テキスト形式で保存したりできます。

ログファイルが指定サイズより大きくなったときに警告が表示されるようにするには、警告を表示するためのチェックボックスをオンにし、テキストボックスにログファイルのサイズを指定します。そうすれば、任意のログファイルがそのサイズを超えたときに、警告が表示されるようになります。



8 – テクニカルサポート



第 8 章- テクニカルサポート

Intego Personal Backup X の登録を済ませている方は、テクニカルサポートを利用できます。

電子メールによるお問い合わせ

support@intego.com

Intego 社の Web サイト

www.intego.com



9 – 用語集



用語集

アーカイブ: アーカイブとは、圧縮形式の読み込み専用ディスクイメージファイルとして保存された特殊なバックアップのことです。アーカイブにファイルを追加することはできませんが、ディスクイメージから個々のファイルまたはすべてのファイルをコピーすることは可能です。

管理者: Mac OS X は複数のユーザを考慮したオペレーティングシステムであり、少なくとも 1 人のユーザが管理者になる必要があります。管理者とは、システムレベルの特定のタスクまたは変更を実行できる権限を持つユーザのことです。新しいソフトウェアをインストールしたり、Intego Personal Backup X で特定のファイルをコピーしたりする場合など、システムレベルの変更を行うには、管理者用パスワードを入力する必要があります。

クラッシュ: クラッシュは、コンピュータに起こりうる最も避けたい現象の 1 つです。これは、コンピュータ内にソフトウェアまたはハードウェアに起因する問題があることを意味します。クラッシュが起こると、ファイルが損傷し、データを失うことがあります。

クローン: クローンとは、ハードディスクなどのボリュームをまったく同じ状態でコピーしたものです。Mac OS X の起動ディスクを安全にバックアップする唯一の方法は、そのクローンを作成することです。作成したクローンは、コンピュータを起動するために使用したり、システムファイルを失った場合のバックアップとして使用することができます。システムに問題が発生した場合は、そのクローンをシステムディスクにコピーし直すことで、Mac OS X をインストールし直さなくても済みます。

ターゲットモード: ターゲットモードは、あるコンピュータをハードディスクとして別のコンピュータ上にマウントする方法です。この操作を行うには、まず 2 台のコンピュータを Firewire ケーブルで接続します。ターゲットモードで起動させるコンピュータの電源は切っておきます。そのコンピュータを起動する際に、キーボードの T キーを押したまま電源を入れます。すると、その画面に Firewire のシンボルが表示され、まるでそのコンピュータが外部ハードディスクであるかのように他方のコンピュータにマウントされます。



第9章- 用語集

ディスクイメージ: ディスクイメージとは、1 個のファイルとして作成されたボリュームのことです。任意のボリュームから作成したディスクイメージを他のボリュームにコピーすることができます。ディスクイメージをダブルクリックすると、まるで別のディスクであるかのようにそのボリュームが開きます。

同期: 同期とは、2 つのフォルダ、ボリューム、またはディスクを比較し、双方に含まれる内容を同じにするプロセスです。一方で変更されたファイルは他方にコピーされるため、まったく同じファイルが双方に含まれることとなります。この機能は、デスクトップコンピュータと PowerBook または iBook など、2 台のコンピュータで作業しており、両コンピュータのファイルを同じ状態に保っておきたいような場合に特に便利です。

バックアップ: バックアップとは、保管の目的で、ある場所（通常は、お使いのコンピュータ）から別の場所にコピーしたファイルやフォルダのことです。バックアップは、他のコンピュータ、他のディスクやパーティション、または CD-ROM や Zip カートリッジなどのリムーバブルメディアに作成できます。

復元: 復元とは、バックアップからお使いのコンピュータにファイルをコピーするプロセスのことです。復元により、失ったファイルや間違えて消去したファイル、あるいは損傷したファイルを元の状態に戻すことができます。

ボリューム: ボリュームは、ハードディスク、ハードディスク上のパーティション、ネットワーク上のディスクまたはパーティション、または CD-ROM や Zip カートリッジなどのリムーバブルディスクの場合があります。いずれの場合も、これらのボリュームはすべてハードディスクのように扱われます。

